

令和5年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

- ① ケアカンファレンスや全職員研修会・申し送り等で、生活リハビリや廃用症候群について学び、全職員で継続した支援に取り組みます。
 - ② 各職種と情報共有を密におこない、機能低下が予測される利用者へ集中した観察や生活支援を行います。また、必要時は、速やかに福祉用具の検討・導入を行い、適時、使用状況を確認します。
 - ③ リハビリに関連した内容等は、各担当職員へ説明・伝達を行い、各利用者の生活動作の維持・低下防止に努めます。
 - ④ リハビリで使用する物品の管理や手入れを定期的に行い、安全にリハビリを実施します。
- ↓
- ①②③④利用者の重度化に伴い、拘縮や褥瘡予防に努めた。今年度の全職員研修会は、動画学習を実施。今後も実践につなげる学習の取入れが必要。

(9) 適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求、預り金・保険証等の管理を適正に行います。

↓

職員配置等の加算要件を常に確認し、不正請求の防止を図った。しかし、加算要件に満たない請求が一部判明し、早急に過誤調整を行った

(10) 住環境整備

- ① 生活環境としての快適性、利便性、安全性を追求し、必要な対策を速やかに行います。
- ② 職員一人一人が環境美化に努め、生活の場としてふさわしい空間とします。
老朽化している設備の改修を行い、安全な生活環境整備を行います。

↓

①②前年度に比べれば、生活環境の意識は高まっていると思うが、居室によっては整理整頓が十分でない居室もある為、継続した意識づけを行いたい。

- ③ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、腸内細菌検査の実施、ゴキブリ駆除、排水管清掃、受水槽・循環風呂の感染症予防等)。

↓

腸内細菌検査は月1回実施し、検査に問題はなかった。ゴキブリ駆除は業者に年4回実施し、常時は駆除具の設置を行った。受水槽清掃は、業者により年1回実施した。

3. 働きやすい職場づくり・人材の育成と確保

(1) 知識・技術、専門性の向上

- ① 介護保険制度や他制度の動向等の情報を収集し共有します。また、令和6年度の制度改正に向け、その内容を理解し準備・実践します。

↓

制度改正に向け、後手にならないよう情報収集した。改正にあわせご家族に料金表などの同意書を作成した。

- ② 利用者の高齢化や重症化に伴い、より多くの知識や介護・看護技術を習得し、専門性の向上を図ります。
- ③ 各職種が専門職としての役割を自覚し、常に探究心や向上心を持ち、自己研鑽に努めます。

↓

②③職種や全体としての取り組みは行えず、個人の自主性に任せる事が殆どであった。

- ④ 年間研修計画に沿った内部研修や法人研修などに積極的に参加します。また、Webを活用し参加しやすい研修を開催します。

↓

令和5年度は、新たにジョブモデルアカデミー動画研修を導入し、集合研修・個人研修で活用した。

(2) 職員の育成

- ① 中堅職員は責任ある業務に就き、課題発見や改善に努め、リーダーシップ力を養います。また、積極的に外部研修へ参加します。
↓
中堅職員へは技能実習生の指導や一緒に業務遂行の役割を与える等、責任ある業務に就く機会を増やした。
- ② 職員の介護方法等の習熟度を明確にし、目標を達成出来ていない職員には指導職員が、随時個別指導を実践します。また、指導後の確認・評価を行いフィードバックします。
↓
個別指導は随時行い、指導後の確認やフィードバックも実施出来た。
- ③ 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。
↓
無資格者に対し認知症ケアかかる研修を受講させた。また、なの国ケアスクールを受講させた。
- ④ 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。
↓
キャリアパス関係ルールに則り実施した。
- ⑤ 外国人労働者(EPA、技能実習生)に対する適切な指導と友好的な関わりを持ちます。
↓
技能実習生とは定期的に面談の場を設け、今後の仕事の進め方や技術の習得等の話し合いが出来た。また、指導担当者とは密に情報交換を行い、要所要所で集まる機会を設け、意見交換も積極的に行った。これらの経験を参考にしながらEPA受け入れも行った。

(3) 働きやすい職場環境作り(離職防止への取り組み)

- ① 『利用者へ良いサービスを提供するためには、働いている職員にとっても良い環境でなければならぬ。』という視点に立ち、常に職場環境に目を配り、多様な働き方の促進を検討し、職員が働きやすい環境づくりを目指します。また、年間を通して、計画的に有休が消化できるよう勤務表を作成します。
↓
多様な働き方は進行形で検討を行いながら、年間の有休も計画的に消化する事ができるよう勤務表を作成する事が出来た。
- ② 職員の目標を明確にし、やりがいのある職場環境を作ります。また、日頃から、職員の疑問や不安等を早期解決し、やる気の継続に努めます。
↓
キャリアパスの面談の際に、各職員の目標を明確にし、何気ない会話を増やす事で、話しやすい雰囲気を作るよう常に意識した。
- ③ 労基法に基づく健康診断、メンタルヘルスチェック、予防接種の補助等を行い、健康で働ける職場作りを目指します。
- ④ 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。
- ⑤ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた取組を行います。
↓

②③④労働安全衛生法に基づく健康診断、メンタルヘルスチェック、またハラスメントの研修を行い、風通しの良い労働環境の健全化に取り組んだ。また外国人労働者の採用を行い、教育指導に多少時間はかかるが、早期に戦力となるよう取り組んだ。

4. 地域貢献

(1) 信頼関係の構築

- ① 社会資源の活用や地域行事への参加を積極的に行い、地域交流を深めます。
↓
上須恵区ミニサービス・もちつきに参加した。特定技能実習生やEPA候補生も参加させた。
- ② ふくおかライフレスキュー事業の情報を共有し、積極的に支援活動に参加します。
↓
サポーター連絡会は、できる限り参加した。
- ③ 自然災害等の有事の際は、福祉避難所としての機能を確保します。
↓
令和5年度は事例がなかった。

利用者状況

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	2	0	2	2	0	1	1	0	2	1	1	1	13
退所者数	1	0	1	1	0	1	1	1	0	2	1	1	10
月末在籍者数	45	45	46	47	47	47	47	46	48	47	47	47	46.6
月末実績数	43	43.4	45.7	46.7	44.6	45.8	45.2	46	46.7	45.7	46.6	47.2	45.6
のべ利用者数	1291	1348	1373	1449	1383	1375	1402	1380	1448	1419	1353	1465	16686
稼働率	86%	87%	92%	93%	89%	92%	90%	92%	93%	92%	93%	95%	91%

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	2	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2
要介護2	3	3	3	4	4	3	3	2	2	2	1	1
要介護3	12	12	12	8	8	7	6	7	7	8	9	8
要介護4	16	17	17	19	19	20	19	19	20	20	20	20
要介護5	12	11	12	13	13	14	16	16	17	15	15	16
合計	45	45	46	47	47	47	47	46	48	47	47	47
平均要介護度	3.73	3.71	3.74	3.74	3.74	3.83	3.89	3.98	4	3.94	3.96	4

③年齢

令和6年3月31日現在

	男性	女性	全体
最高年齢	97歳	100歳	100歳
最低年齢	63歳	68歳	63歳
平均年齢	79.5歳	85.3歳	84.0歳

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
座り込み、落床	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	1	6
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
異食等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚のトラブル	1	1	1	2	1	0	1	2	1	2	0	1	13
配薬関係	4	2	1	3	1	2	2	0	0	1	0	1	17
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	4
合計	5	3	2	5	5	2	3	2	4	4	0	6	41

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実績報告(従来型特養)

1、月別要介護度別利用者数(単位:人)

* 各月の末日を基準

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	2	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	26
要介護2	3	3	3	4	6	3	3	2	2	2	1	1	30
要介護3	12	12	12	8	8	7	6	7	7	8	9	8	92
要介護4	16	17	17	19	19	20	19	19	20	20	20	20	210
要介護5	12	11	12	13	13	14	16	16	17	15	15	16	158
平均要介護度	3.73	3.71	3.74	3.74	3.74	3.83	3.89	3.98	4	3.94	3.96	4	42.53
合計	45	45	46	46	47	47	47	46	48	47	47	47	513
前年度	47	48	48	47	49	48	47	47	47	47	44	44	516

2、月別要介護認定申請・訪問調査(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
申請	4	5	0	1	1	5	1	0	0	3	5	0	25
訪問調査	6	0	5	0	1	3	3	0	0	2	0	5	25

* 申請:区分変更申請含む

* 訪問調査:委託調査での調査含む

3、カンファレンス開催(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
更新	6	6	10	11	8	7	10	8	5	7	8	10	96
変更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	6	10	11	8	7	10	8	5	7	8	10	96
前年度	11	10	8	10	7	7	9	7	9	8	5	13	104

* 担当介護職員への聞き取りも含む

4、ケアプラン作成(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0	1	2	2	0	0	1	0	1	1	1	1	10
更新	6	6	8	9	8	7	10	8	4	6	7	9	88
変更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	7	10	11	8	7	11	8	5	7	8	10	98
前年度	11	10	8	10	7	7	9	7	9	8	2	13	101

恵昭園リハビリ状況

月別リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訓練室リハ	169	154	173	153	146	174	170	160	207	169	170	170	2019
	(18回)	(20回)	(19回)	(17回)	(16回)	(20回)	(19回)	(18回)	(20回)	(18回)	(19回)	(18回)	(222回)
居室リハ	56	73	33	71	45	41	71	59	56	46	36	49	636
	(13回)	(16回)	(9回)	(13回)	(8回)	(13回)	(13回)	(13回)	(12回)	(13回)	(13回)	(12回)	(148回)
ショートステイ	23	19	29	27	25	33	35	43	45	37	37	42	395
	(12回)	(7回)	(13回)	(14回)	(12回)	(15回)	(18回)	(16回)	(14回)	(15回)	(13回)	(11回)	(160回)
計	248	246	235	251	216	248	276	262	308	252	243	265	3050

訓練室リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
起立訓練	12	5	10	8	6	8	6	5	5	4	5	6	80
平行棒内歩行	16	15	14	22	15	20	16	15	22	19	17	19	210
歩行訓練	3	2	2	4	3	3	2	1	2	2	6	5	35
可動域訓練	75	57	73	71	67	73	61	60	87	71	63	70	828
ホットパック	107	105	112	96	92	109	122	106	127	100	114	111	1301
その他													
計	213	184	211	201	183	213	207	187	243	196	205	211	2454

行事实施状況

月	日	行 事	利用者数
4	3	お花見弁当	全員
	13	喫茶	全員
	22	卯月の会	全員
	28	お楽しみメニュー	全員
5	11	喫茶	全員
	16	皐月の会	全員
	25	お楽しみメニュー	全員
	29	外出行事	3名
6	1	喫茶	全員
	26	お楽しみメニュー	全員
	14	水無月の会・レクリエーション会	全員
7	21	喫茶	全員
	23	文月の会	全員
8	3	納涼会	全員
	12	お盆法要(祭壇のみ)	
	17	喫茶	全員
	22	お楽しみメニュー	全員
	31	葉月の会	全員
9	5	喫茶	全員
	20	敬老祝賀会	全員
	19	お彼岸法要(祭壇のみ)	
	28	お楽しみメニュー	全員
10	4	喫茶	全員
	11	神無月の会	全員
	27	お楽しみメニュー	全員
11	9	喫茶	全員
	28	霜月の会	全員
12	5	利用者忘年会	全員
	21	喫茶	全員
	28	もちつき	20名
1	1	新年祝賀	全員
	29	お楽しみメニュー	全員
	18	喫茶	全員
2	3	節分行事	全員
	8	如月の会	全員
	15	喫茶	全員
	29	お楽しみメニュー	全員
3	7	喫茶	全員
	16	お彼岸法要(祭壇のみ)	
	21	弥生の会	全員
	29	お楽しみメニュー	全員
<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、外出行事などは中止する。 また、集団やフロア間の移動を伴う施設内行事についても、開催を 自粛したり、開催方法をフロアごとにする。</p>			

施設内研修実施状況

開催年月日	研修内容	参加職種	参加人数
R5.4.21	令和5年度 事業計画説明会 * 資料配布のみ	全職種	個人
5.26	高齢者の特性と基礎看護、救急法 食中毒の予防と対策 感染症対策	全職種	21
6.23	身体拘束と高齢者虐待防止 * 県老協動画研修	全職種	20
7.25	KY活動(オンライン)(外部講師)	全職種	17
8.23	ハラスメント研修(オンライン)(外部講師)	全職種	27
9月中	褥瘡予防と生活リハビリ、ターミナルケア * 県老協動画視聴	全職種	個人
10.27	感染症予防と対策	全職種	16
11.21	認知症の理解(オンライン)(なの国職員講師)	全職種	12
12.14	メンタルヘルス(オンライン)(外部講師)	全職種	18
R6.11月中	非常災害・感染症BCP * ジョブモデルアカデミー動画視聴	全職種	個人
2.22	令和5年度 事故報告・リスク検討会、身体拘束・虐待防止 * ジョブモデルアカデミー動画視聴	全職種	19
3.29	口腔衛生の管理体制について * 県歯科医師会動画視聴	全職種	15

施設外研修実施状況

開催年月日	研修内容	参加職種	参加人数
10/19.20	九州老人福祉施設職員研究大会(福岡大会)	施設長、相談員	3

ボランティア来園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人													0回
サークル指導													0回
団体													0回
延べ回数													0回
延べ人数													0人

新型コロナウイルス感染症対策のため、受入は中止とした。

実習受け入れ状況

期間	学校名	人数
R5.11.6	介護労働安定センター実習	1名

令和5年度 特別養護老人ホーム恵昭園ショートステイ 事業報告

I 事業目標

「経営の充実と安定した運営に取り組む」

II 施設目標

利用者様に喜びと生きがいを持っていただけるよう、信頼・理解を深め、ケアの質の向上を図る。

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 安定した利用実績の達成

- ① 年間平均8.5人以上の稼働率を意識して、円滑な受け入れを行います。

↓

年間平均8.17人/日。最大値は6月の9.3人/日、最低値は10月の7.32人/日だった。

- ② 法人本部と協力し広報・営業活動を行い、関係機関との信頼関係作り・ニーズ把握に努め、新規利用者の受け入れを積極的に行います。また、利用者・家族が安心して利用できるような関わりを持ち、再利用や定期利用に繋がります。

↓

新規利用者数は28名。令和4年度より増加した。

- ③ 緊急利用の受け入れ・利用の追加(延長)等、可能な限り、利用者・家族の要望に応じた柔軟なサービス提供に努めます。

- ④ 看護・介護職と連携し、医療ニーズの高い方も可能な限り受け入れを行います。

↓

胃妻の方の利用の相談があり、受入れ開始。定期利用に繋がっている。

- ⑤ 介護予防の方やロングショートを受け入れを積極的に行い、選ばれる施設に向けて信頼を得るサービスを提供します。

↓

ロングショートについて、状態によっては夜勤配置の状況等踏まえ、一旦1泊又は2泊での利用をお願いしており、急な相談に対応できないこともあった。

- ⑥ 固定利用の方のサービス中止やロングショートの終了等、大幅な稼働の停止に出来る限り迅速に対応できるよう、顧客を増やします。

↓

夜勤者配置との兼ね合いが大きいものの、上記②に記載の通り、新規利用者増に努めた。

(2) 適正な予算管理

- ① 職員全員が事業所の収支状況を共有し、一人一人が健全な経営ができるよう収入増加、コスト削減(ペーパーレス・節電・節水等)の視点に立ち、随時、サービスの見直しを行います。

- ② 予算に基づいた収入・支出を適正におこないます。

↓

①②当初稼働率8.5人を8.3人と下方修正し、年間稼働率が8.2人とほぼ計画人数となった。ロング利用者が微増となったが、夜勤体制の見直しが出来なかったことで利用を断らなければならない状況もあり、6年度は毎日の夜勤配置できる職員体制に取り組み、稼働率の向上を図る。予算では、稼働率に伴う収入減額、修繕費、リース料の増額を実態に合わせて年度途中で増額し、大きな予算超過は発生しなかった。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 利用者・家族との信頼関係の構築

- ① 利用者の心身状態やニーズ・家族の希望等を的確に捉え、各職種と情報共有し、利用者個々の暮らし振りが継続できるよう支援します。
↓
都度の情報等、リアルタイムで周知できるように情報発信をし、情報共有に努めている。
- ② 利用者・家族のサービス評価(アンケート調査)を実施し、意向等の把握に努め、サービス内容や質の向上に繋がります。
↓
アンケートの実施はなかった。
- ③ サービス担当者会議に積極的に参加し、利用者・家族・担当ケアマネジャー・各サービス事業者間との連携・情報共有に努め、関係職種・職員へ情報提供及び周知を図ります。
↓
出来る限り担当者会議に参加して、情報共有と収集を行い、関係職種・職員へ周知して、サービスの質の向上に努めている。
- ④ 送迎時等のコミュニケーション・利用状況報告書(及び連絡ノート)等を活用し、情報収集・提供を行います。また、要望(依頼事)等に対しては、利用者個々で履歴管理(記録)し周知を図ります。
↓
ご家族からの要望などの伝達事項は、都度、申し送りメモを使用し伝達した。内服薬の変更などについては、都度、ご家族へ確認した。

(2) 適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求を適正に行います。
↓
居宅介護支援事業所との連携により

(3) 介護サービスの充実

- ① 初回利用者に対しては、精神的負担の緩和・リスクマネジメントの視点を持ち、意識的な関わり・詳細な記録・情報共有等を通して、安全で安心できる生活の場を提供します。
- ② 認知症等による行動障害・精神症状に対して予測・予防的な支援と安心できる対応を行います。
- ③ 職員によるサービス評価を実施し、課題を分析・検証し、基本サービスの改善及び充実を目指します。
↓
①②③初回利用については、リスクマネジメントや認知症状に対するケアの視点から、夜勤者が配置できる日に日程調整し受け入れた。サービス評価は実施出来なかったが、課題や検討が必要な事案が発生した際は、職員間で意見を出し合い、早期解決、早期対応に努めた。
- ④ 行事・レク委員会を中心に、季節に応じたフロア作りやレクリエーションを実施します。また、利用者自身が目的を持って利用できるよう、計画的かつ個別のプログラムを検討・実施します。
↓
季節の変化に応じた壁紙の作成やフロア作りは実践できた。また、敬老会や忘年会等の行事開催は、昨年と曜日を変え、利用者の重複が無いように計画を立て実施した。
- ⑤ 利用者個々の身体状態や在宅での暮らし振りに即した生活環境を整えます。また、快適な生活空間を提供できるよう清掃・整理整頓を徹底します。
↓

ケアマネとの情報交換・共有を密に行い、在宅での様子や暮らしぶりの情報収集に努めた。

- ⑥ 業務の見直しや現行の評価を定期的に行いながら現状の課題を把握し、必要に応じて業務改善を行います。

↓

大幅な業務改善は行わなかったが、課題解決に向けた取り組みは迅速に行った。

- ⑦ 介護ソフトの新規導入に伴い、各職員が操作や活用を周知・理解し、記録のデジタル化を図ります。また、LIFE 加算の取得に向け取り組みます。

↓

介護ソフトに関しては、操作方法や活用の仕方を個別に説明し、大きな戸惑い等もなく従来型より先に完全移行する事が出来た。

(4) リスクマネジメントの徹底

- ① 利用時毎の利用者の体調や状態変化等を情報収集し、関係職種間で確実な伝達を行います。
- ② 体調や状態変化については、利用中の継続的な観察と記録を行い異常の早期発見に努めます。
- ③ 事故の再発防止や事故の予防・予測に有効活用できるような記録内容とします。

↓

①②③記録については、ワイズマンを活用した。内服関係の事故(セットミス)があり、看護師任せにせず、服薬介助する介護員も気づきの視点が必要になる。

- ④ 苦情解決第三者委員に対して事故・苦情等の報告を行い、透明性のある運営を行います。

↓

年2回、若杉の里と合同で報告会を開催した。

- ⑤ 施設賠償保険に加入し、事故発生時は誠意ある対応を行います。

↓

大きな事故もなく施設賠償保険の請求も行わなかった。

- ⑥ 定期的な防災・防犯の教育・訓練に積極的に参加し、有事の際の的確な言動に繋がります。

↓

恵昭園と合同で開催した。

(5) 健康管理

- ① 看護スタッフを中心に、日々のバイタルチェック・心身の状態観察等により状態の把握や維持に努め、家族等への相談・報告を行い、有事の際は迅速に対応します。
- ② 利用者の持参薬の把握や徹底した管理に努め、薬関係の事故を無くします。

↓

①②日常的な健康チェック・服薬管理は行えたが、内服関係の事故(セットミス)があった。

(6) リハビリテーションの実施

- ① リハビリスタッフを中心に、利用者・家族の希望に応じ個別機能訓練を実施し、『できる事・している事』を日常のケアに反映します。また、在宅生活継続の意識を持ち、身体機能・日常生活動作の維持・活用に視点を置いて実施します。

↓

他職員と連携し、利用者の希望を伺いながら安全に実施できた。

(7) 住環境整備

- ① 生活環境としての快適性、利便性、安全性を追求し、必要な対策を速やかに行います。
- ② 職員一人一人が環境美化に努め、生活の場としてふさわしい空間とします。

- ③ 老朽化している設備の確認を行い、修理依頼等を実施し、安全な生活環境整備を行います。

↓

①②③環境整備・環境美化に心がけた。

- ④ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、腸内細菌検査の実施、ゴキブリ駆除、排水管清掃、受水槽・循環風呂の感染症予防等)。

↓

④腸内細菌検査は月1回実施し、検査に問題はなかった。ゴキブリ駆除は業者に年4回実施し、常時は駆除具の設置を行った。受水槽清掃は、業者により年1回実施した。

(8) 感染予防に対する取り組み

- ① 感染症対策委員会を中心に、感染症の発症予防・発症時の拡大防止に資する徹底した清掃・環境整備に努めます。また、時期に応じた情報を収集し、利用者・家族・職員への注意喚起を行います。
- ② 利用者様は基本的にはご自宅で検温をお願いし、検温できていない場合は施設到着後玄関で検温を行い、熱発やその他異常が疑われる際はご利用をお断りします。
- ③ 利用中に体調不良を確認した際は、ご家族やケアマネジャーに報告し、速やかに医療機関へ受診をして頂きます。又、検査結果が分かるまではフロアを一時隔離して万一来に備えます。
- ④ 送迎で使用した車両や車椅子については使用毎に消毒を行います。

↓

①②③④クラスターの発生はなかったものの、同居者が発症し利用者本人も罹患したケースがあった。本人や同居者が発症した場合、その後の受け入れルールを作った。

3. 働きやすい職場づくり・人材の育成と確保

(1) 職員資質の向上

- ① フロア会議を開催し、職員間の情報共有・意思統一を図りサービスの質やチーム力を高めます。

↓

フロア会議の開催は出来なかったが、勤務の入れ替わり等の時間帯を活用し、情報共有・意思統一が図れるよう努めた。

- ② 勉強会を開催し、介護保険制度等の理解・介護技術や知識等のレベルアップを図ります。また、令和6年度の制度改正に向け、その内容を理解し準備・実践します。

↓

今年度は実施出来なかった。

- ③ 全職員研修会・法人事例発表会などへの参加と発表の機会を持ちます。また、Webを活用し、参加しやすい研修を開催します。

↓

研修会への参加、Webを活用した研修の実施は出来たが、発表の機会等はなかった。

- ④ 外部研修へ積極的に参加します。

↓

九州大会のサポートメンバーやライフレスキューサポーター研修を受講した。

- ⑤ 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。

↓

無資格者に対し認知症ケアに関わる研修を受講させた。

- ⑥ 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。

↓

キャリアパス関係のルールに則り実施した。

(2) 働きやすい職場環境作り(離職防止への取り組み)

- ① 労基法に基づく健康診断・メンタルヘルスチェック及び予防接種の補助を行い、健康で働ける体制を支援します。
- ② 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。
- ③ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた取を行います。

↓

労働安全衛生法に基づく健康診断、メンタルヘルスチェック、またハラスメントの研修を行い、風通しの良い労働環境の健全化に取り組み退職者は無かった。

4. 地域貢献

(1) 信頼関係の構築

- ① 通所事業所と連携しながら家族アンケートを実施し、ご希望に応じた介助方法に関する勉強会を開催します。

↓

アンケートは実施できなかった。

- ② 「ふくおかライフレスキュー事業」の情報を共有し、積極的に活動に参加します。

↓

短期相談員が新たにサポーターになった。次年度より、連絡会に参加したい。

3、月別要介護度別利用日数(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	0	0	2	4	6	11	10	4	6	16	6	7	72	6.0
要支援2	27	31	36	28	29	33	27	25	31	26	29	33	355	29.6
1日平均(人)	0.9	1	1.3	1	1.1	1.5	1.2	1	1.2	1.4	1.2	1.3		
合計(予防)	27	31	38	32	35	44	37	29	37	42	35	40	427	35.6
要介護1	49	79	74	73	57	48	45	55	55	46	61	51	693	57.8
要介護2	107	95	73	49	48	49	40	45	38	41	36	35	656	54.7
要介護3	7	12	38	12	9	39	41	31	42	42	41	66	380	31.7
要介護4	24	10	4	34	51	38	40	55	57	32	31	52	428	35.7
要介護5	45	20	52	45	52	25	24	26	44	28	20	24	405	33.8
更新中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
1日平均(人)	7.7	7	8	6.9	7.00	6.6	6.1	7.1	7.6	6.10	6.5	7.4		
合計(介護)	232	216	241	213	217	199	190	212	236	189	189	228	2,562	213.5
総合計	259	247	279	245	252	243	227	241	273	231	224	268	2,989	249.1
利用率(%)	54	50	58	49	51	51	46	50	55	47	48	54		51.1
前年度	244	251	244	250	225	253	270	230	254	263	82	217	2,783	231.9

4、月別新規利用者受け入れ(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
介護予防	0	0	1	0	0	3	1	0	0	1	0	0	6	0.5
介護	2	3	1	4	1	2	2	2	1	1	2	1	22	1.8
合計	2	3	2	4	1	5	3	2	1	2	2	1	28	2.3
前年度	0	0	1	2	1	3	1	1	4	1	0	4	18	1.5

令和5年度 アネックス恵昭園 事業報告

I 事業目標

「経営の充実と安定した運営に取り組む」

II 施設目標

個室ユニットの特性を活かし、ユニットケアの理解を深め、入居者一人一人が、その人らしい暮らしを送ることができるよう支援する。

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 安定した利用実績の維持

- ① 入退居における円滑な調整を行い、年間を通してベッド稼働率が維持できるよう取り組みます。(目標値:平均18名/日)。

↓

年度当初は平均16名のスタートだった。下半期は、在籍者18~19名・平均18~17名まで伸びたが、結果的に年間平均は16.5名だった。退居者数<新入居者数だったことや入院者が少なかった事で、実績が伸びたと思われる。

- ② 法人本部と協力し営業・広報活動に努め、在宅サービス提供機関、居宅介護支援事業所、医療機関との連携強化・ニーズ把握・情報共有に努め新規申込者(待機者)の確保に繋がります。

↓

積極的には行えなかった。問い合わせがあればタイムリーに対応した。

- ③ 入所申込者(待機者)に対し、定期的に連絡を取り、近況・現状の把握に努め、適時の入居に繋がります。また、緊急性などを考慮し、新規申込者からも積極的に入居受け入れをします。

↓

できる限り早期の入居に繋がるよう努めた。特に下半期は新入居者>退居者となり、実績増につながった。

(2) 適正な予算管理

- ① 職員全員が事業所の収支状況を共有し、一人一人が健全な経営ができるよう収入増加、コスト削減の視点に立ち、サービスの見直しや業務の効率化を図ります。

- ② 予算に基づいた収入・支出を適正におこないます。

↓

①②当初稼働率17.5人を16.3人と下方修正し、年間稼働率が16.5人とほぼ計画人数となった。長期入院者により年度途中で下方修正したが、若干ではあるが何とか目標数値以上となった。排泄回数の見直し、排泄用品の変更・見直すことで紙おむつのコスト削減へ繋がった。修繕費、設備備品等のリース料を補正で増額し、また当初予算に計上していなかったコロナクラスターに対する補助金により年間収支差額が増額となった

2. 高品質なサービスの提供

(1) 介護サービスの充実

- ① 24時間シートを有効的に活用するために、状態変化・対応の変化時の随時更新を徹底し、入居者個々のこれまでの生活や自分らしい暮らし振りの継続に着目したサービスを提供します。

↓

24時間シートの更新は行えたものの、入居者個々の生活や自分らしい暮らしぶりより施設生活に

合わせた内容が多かった。

- ② プライバシーや安全に配慮した環境を整え、心身共にリラックスできる入浴ケアを提供します。

↓

入居者の状態に合わせて入浴形態を変更するなどの対応を行い、安全に配慮した入浴ケアの提供が行えた。

- ③ 入居者個々の排泄パターンを把握し、排泄用品や誘導時間、羞恥心、プライバシーに配慮した排泄ケアを提供します。

↓

入居者の状態変化に合わせて、排泄用品や介助方法を検討し、対応出来ていた。

- ④ 入居者に対して、尊厳の心を持ち、会話の抑揚にも配慮し、丁寧な対応、謙虚で受容的な態度で接します。

↓

言葉遣いの大きな乱れはなく、全体的に丁寧な対応は出来ていたと思われる。

- ⑤ 入居者の整容・身嗜みケアを重視すると共に、担当入居者との関わりを意識を高め、衣類や私物等の管理も徹底します。

↓

担当職員の意識の差があり、衣類や私物の管理に関しては、職員によって差が見られた。

- ⑥ 季節感と潤いのある生活を目的とし、個人の希望に沿った外出支援や趣味活動、季節に応じた行事を行います。また、外出支援や行事開催は、感染対策に十分配慮した方法で実施します。

↓

今年度もコロナウィルスの影響でほとんど行えなかったが10月に1度外出行事と天気の良い時に外気浴を行う事が出来た。ご家族の希望で数名、外出支援も行った。感染対策には十分に配慮した方法で実施した。

- ⑦ 日々の情報収集・提供を確実に言い、早期に課題発見・解決します。また、各職種との情報共有・連携を強化し、連続したケアを各職種協働で提供します。

↓

タブレットにて各職種が情報発信を行い、情報共有・連携が図れていた。

- ⑧ サービス評価(アンケート)を実施し、現状の課題や要望などについて検討・見直します。

↓

令和5年度は実施できなかった。居室面会が再開しない間は、実施ができないと判断する。

- ⑨ 業務の見直しを定期的に行い、効率化・職員の負担軽減・コスト削減等を意識した業務改善を積極的に行います。

↓

大きな業務改善は行えていないが、職員が勤務時間内で行えるように入浴の調整や職員間での助け合いが出来ていた。

- ⑩ 介護ソフトの新規導入に伴い、各職員が操作を周知・理解し活用します。また、LIFE 加算の取得に向け取り組みます。

↓

介護ソフト導入はスムーズに行え、導入後も活用できていると思う。LIFE 加算については算定までには至らなかったが下準備はできた。

(2) 健康状態の維持管理

- ① 高齢者の特性を理解すると共に、各職種からの情報収集や心身の状態把握に努め、健康維持の管理を行い、安心・安全な生活が送れるよう支援します。

↓

各職種からの情報収集を行い、利用者の状態把握に努めた。

- ② 定期健診を実施し、健診結果を嘱託医と共に入居者・家族へ報告し、治療方針や高度医療の意向確認を随時行います。

↓

定期健診は実施できた。嘱託医と共に家族への報告はできなかったが、看護師が説明を行い緊急時の意向確認は行った。

- ③ 入居者の病歴・症状を把握し、急変時は速やかな対応を行います。また、状態変化時は、各職種と情報共有し、連携したケアを提供します。

↓

状態変化時は各職種との情報共有を行い連携したケアを提供することが出来た。

- ④ 高まる医療ニーズに応じられるよう、受け入れ体制を整えます。

↓

人員不足もあり受け入れ体制を整えることは出来なかった。

(3) 看取り期の円滑な提供

- ① 入居者・家族へ状態説明を行い、意向に沿ったケアを提供し、終末期の身体的・精神的負担軽減に努めます。

↓

看取り期の利用者の家族への状態説明を何度も行い、精神的負担の軽減に努めた。

- ② 状態変化に応じて、職種間の連携を密に行い、ケアの充実を図ります。

↓

看取り期の利用者の予想される状態変化を他職種にも伝え職種間の連携・ケアの統一を図ることが出来た。

- ③ プライベートの空間を活かしたケアを提供します。

↓

終末期の方の居室ではご家族の方の面会時の椅子を準備や音楽を流すなど、リラックス出来る空間づくりに努めた。

(4) リスクマネジメントの徹底

- ① 各職種が専門分野における事故の予防や予見の視点を持ち、記録システム(タブレット)を活用し情報伝達・共有を徹底します。

↓

タブレットを活用し、各職種が意識的に情報発信・共有が出来ていたと思う。

- ② ヒヤリハット報告書は、『事故を未然に防ぐツール』と認識し積極的に提出します。

↓

年間を通して、ヒヤリハット報告書の件数は2件だった。入居者のいつもと違う言動があれば、タブレットにて発信を行い、情報共有に努めていた。

- ③ 入居者の状態や薬剤状況を把握し、薬関係の事故防止に努めます。

↓

年間を通して服薬関係の事故は3件だった。対策を検討・伝達し、再発事故防止に努めた。

- ④ 褥瘡予防委員会を中心に褥瘡リスクの意識を高めます。また、褥瘡予防アセスメントを活用し、日々の観察や予防対策等のケアの統一を図り、褥瘡ゼロを継続します。

↓

日々の皮膚状態や食事量の低下、身体状態の変化などを観察し、必要に応じてマットの検討や体交の実施を行い、予防に努めた。

- ⑤ 身体拘束の適正化・虐待防止への理解を深め、不適切なケアの改善や職員のストレスケア等の取り組みを推進します。

↓

身体拘束・虐待に値する事例はなかったが、不適切なケアについては全くなかったとは言い切れない。アネックスの職員配置では1名で業務を行う事が多く、職員個人の身体拘束廃止や虐待防止に対する理解を深める必要がある。

- ⑥ 定期的な防災・防犯の教育・訓練に積極的に参加し、有事の際の的確な行動に繋がります。

↓

令和5年度はBCPにも取り組み始めることができた。

- ⑦ 苦情解決第三者委員に対して事故・苦情等の報告を行い、透明性のある運営を行います。

↓

年2回(上期・下期)、若杉の里と合同で報告会を開催した。

- ⑧ 施設賠償保険に加入し、事故発生時は誠意ある対応を行います。

↓

大きな事故もなく施設賠償保険の請求も行わなかった。

(5) 感染症対策への取り組み

- ① 感染症対策委員会(内部・若杉の里合同)を通じて情報共有を図り、マニュアルの周知と的確な予防対策を行います。
- ② 職員の感染リスクに対する認識をしっかりと持ち、感染予防へ取り組みます(職場外も含む)。
- ③ 感染予防および拡大防止に資する清掃・環境整備等の衛生面への取り組みを徹底します。
- ④ 有事(疑い含む)の際は、迅速かつ適切に感染対策を講じます。また、有事に備え物品等を備蓄しておきます。

↓

①②③④において、令和5年度は、コロナ感染はあったもののクラスターの発生には至らなかった。

- ⑤ 県内や施設近隣の発生状況等を把握・共有します。

↓

委員会を活用し把握・共有に努めた。

- ⑥ 「面会制限」に伴う入居者・家族への心理的負担に配慮した取り組みを実践します。

↓

ご家族に対し、写真や近況報告を郵送するなどして配慮した。また、面会については、一定のルールは設けているものの、利用者の状態やご家族の都合に合わせて、柔軟に対応した。

(6) ケアプラン及びカンファレンスの充実

- ① 24時間シートとケアプランとの連動性を図り、入居者が望む生活やサポート内容を明確にし、状態変化時は、随時更新します。
- ② カンファレンスを通して、職員・職種間の共通理解や意思統一を図ります。
- ③ 各職種が率先して入居者・家族との関係性を深め、生活に対する意向・思いを汲み取り、記録システム(タブレット)を活用し情報共有します。

↓

①②③ケアプランは期限が切れることなく作成した。カンファレンスが不十分であるため、今後の課題である。記録については、介護ソフトを活用し、収集・発信を積極的に行った。

(7) 食事サービスの充実

- ① 栄養ケアマネジメント・カンファレンスを実施し、各職種からの情報提供・意見交換により、入居者個々の健康状態や身体状況・嚥下機能・嗜好に沿った食事・形態・療養食・代替食品・補助食品を適宜検討します。

- ② 年間行事予定に基づいた行事食やユニット内での調理等を実施し、食欲や季節感を感じられる食事を提供します。
- ③ 嗜好調査や残食調査を実施し、献立に反映させ、満足度の向上を図ります。
- ④ 定期的な給食委員会や連絡ノートを活用し、給食委託業者との連携・情報共有を図ります。

↓

①②③④において、随時実施を行った。食材費高騰の中、季節感を感じられる又、入居者に人気のある献立を提供した。

(8) 安全なリハビリテーションの実施

- ① ケアカンファレンスや全職員研修会・申し送り等で、生活リハビリや廃用症候群について学び、全職員で継続した支援に取り組みます。
- ② 各職種と情報共有を密におこない、機能低下が予測される入居者へ集中した観察や生活支援を行います。また、必要時は、速やかに福祉用具の検討・導入を行い、適時、使用状況を確認します。
- ③ リハビリに関連した内容等は、各担当職員へ説明・伝達を行い、各入居者の生活動作の維持・低下防止に努めます。
- ④ リハビリで使用する物品の管理や手入れを定期的に行い、安全にリハビリを実施します。

↓

①②③④全職員研修会は、動画にて学習を行った。新入居者や機能面の低下の予測される利用者へのリハビリ・観察を行い、適時体交枕使用状況チェックや拘縮予防に努めた。

(9) 適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求、預り金・保険証等の管理を適正に行います。

↓

職員配置等の加算要件を常に確認し、不正請求の防止を図った。

(10) 住環境整備

- ① 個室ユニットの特性を活かした自分らしい暮らし振りや、生活空間としての快適性・利便性・安全性を追求し、課題は速やかに改善します。

↓

個室の特性を活かした自分らしい暮らしぶりとまではいかないが入居者の希望や安全性に配慮した居室家具の配置を行った。

- ② 設備改修等が必要な場合は迅速に行い、安全な住環境整備を行います。

↓

キッチンの水道や居室のルームエアコンの故障の際に修理を行った。

- ③ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、腸内細菌検査の実施、ゴキブリ駆除、受水槽等の感染症予防等)。

↓

腸内細菌検査は月1回実施し、検査に問題はなかった。ゴキブリ駆除は業者に年4回実施し、常時は駆除具の設置を行った。受水槽清掃は、業者により年1回実施した。

3. 働きやすい職場づくり・人材の育成と確保

(1) 知識・技術、専門性の向上

- ① ユニットケアや介護保険制度の動向などの情報を収集し共有します。また、令和6年度の制度改正に向け、その内容を理解し準備・実践します。

↓

随時、収集した。制度改正についても、後手にならないよう料金表等を改定しご家族へ同意を求めた。

- ② 入居者の高齢化や重症化に伴い、より多くの知識や介護・看護技術を習得し、専門性の向上を図ります。
- ③ 各職種が専門職としての役割を自覚し、常に探究心や向上心を持ち、自己研鑽に努めます。
- ④ 年間研修計画に沿った内部研修や法人研修などに積極的に参加します。また、Web を活用し、参加しやすい研修を開催します。

↓

②③④研修に関しては、ジョブメドレーアカデミー動画研修を導入した事により、動画視聴研修を取り入れることができた。それにより、研修日に参加できなくても動画視聴をすることができるようになった。また、個人で視聴できる時間に動画視聴をしてもらうことで、時間外研修が軽減できるようになった。

(2) チームケアの推進

- ① 新規介護ソフト(タブレット)を活用し、共通理解のもと、統一したサービス提供を実践しチームワーク力を高めます。
- ② ユニット会議やカンファレンス、各専門委員会等を通して、各職種が共通認識のもと、ユニットケアや暮らしの視点を強化したケアを実践します。

↓

①②記録システム(タブレット)に関しては、各職種・職員が積極的に情報発信し活用できたと思う。ユニット会議は行えなかったが代わりに介護ノートを準備した。業務や入居者対応などでの検討事項、それに対する職員の意見を記入してもらい、業務改善や入居者対応の変更・統一に活用した。

(3) 職員の育成

- ① 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。

↓

無資格者に対し認知症ケアにかかる研修(オンライン研修)を受講させた。またユニットリーダー研修を受講させ、サービス体制の向上を図った。

- ② 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。

↓

キャリアパスの時期には、ルール通り実施した。

(4) 働きやすい職場環境作り(離職防止への取り組み)

- ① キャリアパス制度を活用し、各職員の目標を明確にし、やりがいを感じることができる職場環境を作ると共に、日頃から、職員の疑問や不安等を早期解決し、やる気の継続に努めます。また、年間を通して、計画的に有休が消化できるよう、勤務表を作成します。

↓

リーダー以上の役職のある職員でキャリアパスでの面談や日頃のコミュニケーションの中で職員の疑問や不安をくみ取り、対応出来ていたと思う。有休の消化についても計画的に行えた。

- ② 労基法に基づく健康診断・メンタルヘルスチェック及び予防接種の補助を行い、健康で働ける体制を支援します。
- ③ 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。
- ④ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた取組を行います。

↓

②③④労働安全衛生法に基づく健康診断、メンタルヘルスチェック、またハラスメントの研修を行い、風通しの良い労働環境の健全化に取り組み退職者は無かった。

4. 地域貢献

(1) 信頼関係の構築

- ① 運営推進会議を通して、入居者・家族、行政機関、地域住民の方々などと情報を共有し、風通しの良い施設作りに努めます。
↓
2ヶ月に1回の定例会議を実施できた。
- ② 「ふくおかライフレスキュー事業」に積極的に参加します。
↓
できる限りサポーター会議に参加した。
- ③ 地域行事への参加を通して、地域住民との交流を深めます。また、入居者の参加を検討し、実現に繋がります。
↓
上須恵区美化作業・ミニデイサービスなど、できる限り参加した。ミニデイサービスに関しては、恵昭園の特定技能実習生やEPA候補生を参加させた。
- ④ 自然災害時などは、福祉避難所としての機能を確保します。
↓
令和5年度は事例がなかった。

入居者状況

①入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	5
退居者数	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
月末在籍者数	16	15	15	17	16	16	18	19	19	19	18	18	17.17
月末実績数	16	16	14.3	15.1	15.8	15.2	16.7	17.3	19	18.3	17.6	17.2	16.54
のべ入居者数	480	495	428	468	489	456	518	519	589	568	509	533	504.3
稼働率(%)	80	79.8	71.3	75.5	78.9	76	83.5	86.5	95	91.6	87.8	86.6	82.71

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
要介護2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
要介護4	6	6	5	8	9	9	9	11	11	11	10	10
要介護5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	16	16	15	17	16	16	18	19	19	19	18	18
平均要介護度	3.69	3.69	3.67	3.88	3.94	3.94	3.72	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89

③年齢

令和6年3月31日現在

	男性	女性	全体
最高年齢	98歳	97歳	98歳
最小年齢	82歳	77歳	77歳
平均年齢	89.0歳	91.0歳	90.3歳

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
座り込み、落床	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食等	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
皮膚のトラブル	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4
配薬関係	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
合計	0	4	2	0	0	2	2	2	3	1	3	0	19

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実績報告(アネックス恵昭園)

1、月別要介護度別利用者数(単位:人)

* 各月の末日を基準

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
要介護2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
要介護3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	54
要介護4	6	6	5	8	9	9	9	11	11	11	10	10	105
要介護5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	40
平均要介護度	3.69	3.69	3.67	3.88	3.94	3.94	3.72	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89	3.83
合計	16	16	15	17	16	16	18	19	19	19	18	18	17.3
前年度	16	17	17	17	18	18	19	19	18	17	17	17	17.5

2、月別要介護認定申請・訪問調査(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
申請	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2	1	7
訪問調査	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	5

* 申請:区分変更申請含む

* 訪問調査:委託調査での調査含む

* 新型コロナウイルス感染症対策のため、更新申請における訪問調査を中止(現在の認定を1年間延長)

3、カンファレンス開催(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
更新	3	1	2	5	6	1	2	2	3	5	4	2	36
変更(ENT)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新規	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
合計	3	1	2	5	6	1	4	3	3	5	4	2	39
前年度	5	3	2	6	4	2	4	3	2	7	4	1	43

* 担当介護職員への聞き取りも含む

4、ケアプラン作成(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
更新	3	1	2	5	6	1	2	2	3	5	4	2	36
変更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	2	5	6	1	4	3	3	5	4	2	39
前年度	5	3	2	6	4	2	4	3	2	7	4	1	43

アネックス恵昭園リハビリ状況

月別リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	44	32	42	42	35	40	39	41	37	40	46	34	472
	(8回)	(7回)	(8回)	(8回)	(7回)	(8回)	(7回)	(8回)	(8回)	(8回)	(9回)	(7回)	(93回)

訓練内容別リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
起立訓練	2	2	1	8	8	5	4	4	5	2	6	5	52
平行棒内歩行	15	11	12	11	11	11	7	11	8	11	11	7	126
歩行訓練							2	4	2		5	3	16
可動域訓練	44	32	40	41	35	40	34	41	36	40	42	34	459
ホットパック													
その他													
計	61	45	53	60	54	56	47	60	51	53	64	49	653

行事実施状況

月	日	行 事	入居者数
4	3	お花見弁当	全員
	21	須恵町議会議員不在者投票	6名
	26	選択食	全員
5	2	選択食	全員
	12	選択食	全員
	26	ほたる見学	4名
6	6	選択食	全員
	14	レクリエーション会	全員
	23	選択食	全員
7	14	選択食	全員
8	2	納涼会	全員
		お盆法要(祭壇のみ)	
	16	選択食	全員
9	5	選択食	全員
	20	敬老祝賀会	全員
		お彼岸法要(祭壇のみ)	
10	4	選択食	全員
	14	選択食	全員
11	8	選択食	全員
	22	鍋の会	全員
12	5	入居者忘年会	全員
	13	選択食	全員
	28	もちつき	10名
1	1	新年祝賀	全員
	10	鏡開き	全員
	17	選択食	全員
2	2	節分行事	全員
	15	選択食	全員
	22	選択食	全員
3	3	ひな祭り	全員
	14	選択食	全員
		お彼岸法要(祭壇のみ)	
	30	選択食	全員

新型コロナウイルス感染症対策のため、外出行事などは中止する。
また、集団やフロア間の移動を伴う施設内行事についても、開催を自粛したり、開催方法をフロアごとにする。

施設内研修実施状況(従来型含む)

開催年月日	研修内容	参加職種	参加人数
R5.4.21	令和5年度 事業計画説明会 * 資料配布のみ	全職種	個人
5.26	高齢者の特性と基礎看護、救急法 食中毒の予防と対策 感染症対策	全職種	21
6.23	身体拘束と高齢者虐待防止 * 県老協動画研修	全職種	20
7.25	KY活動(オンライン)(外部講師)	全職種	17
8.23	ハラスメント研修(オンライン)(外部講師)	全職種	27
9月中	褥瘡予防と生活リハビリ、ターミナルケア * 県老協動画視聴	全職種	個人
10.27	感染症予防と対策	全職種	16
11.21	認知症の理解(オンライン)(なの国職員講師)	全職種	12
12.14	メンタルヘルス(オンライン)(外部講師)	全職種	18
R6.1月中	非常災害・感染症BCP * ジョブメドレーアカデミー動画視聴	全職種	個人
2.22	令和5年度 事故報告・リスク検討会、身体拘束・虐待防止 * ジョブメドレーアカデミー動画視聴	全職種	19
3.29	口腔衛生の管理体制について * 県歯科医師会動画視聴	全職種	15

施設外研修実施状況(従来型含む)

開催年月日	研修内容	参加職種	参加人数
7月	ユニットリーダーWeb研修	介護	2
8/23	地域密着型集団指導	相談員	1
10/19.20	九州老人福祉施設職員研究大会(福岡大会)	施設長、相談員	3
11/16~21	社会福祉施設長資格認定講習	相談員	1
R6.2/21	須恵町多職種連携研修会(オンライン)	相談員	1
3/28	介護職員・看護職員研修	相談員	1

ポランテニア来園状況(従来型含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人													0回
サークル指導													0回
団体													0回
延べ回数													0回
延べ人数													0人

新型コロナウイルス感染症対策のため、受入は中止とした。

実習受け入れ状況(従来型含む)

期間	学校名	人数
	受入なし	

令和5年度 双葉事業報告

I 事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

II 施設目標

(1) 養護老人ホーム、本来の機能に戻す。

① 要介護者を介護施設および療養型への移動(7月末までに終了を目指す)

② 新規利用者(要介護者を除く)の確保

(2) マンパワー不足の解消

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 他職種との協力体制

① 利用率を維持または向上するために必要な業務依頼等について、積極的に他職種と情報を共有しながら協力体制を図ります。

↓

他職種との連携は問題なく出来た。

(2) 収支状況の把握、バランスの取れた施設運営

① 予算で計上した収入・支出のバランスを図りながら、毎月の事務的業務を推進していきます。

② 支出費用に係る経費削減を図ります。

↓

経費削減だけではなく、現在ある物で使用出来る物は使用するなどの工夫が必要である。

(3) 措置機関、病院、地域包括支援センター、他施設等への積極的なアプローチの実施とネットワークの構築を図ります。

↓

5月25日に施設長と相談員で措置機関である福岡市への挨拶回りを実施した。

(4) 入所希望者に対する施設見学および面接の迅速な実施、措置機関への情報提供を行います。

↓

入所自体が少なかったが、迅速な施設見学・面接・措置機関等への情報提供を行った。

(5) 迅速な入所が受けられるよう環境整備を行います。

↓

いつでも入所受け入れが出来るよう空室となった居室の清掃や必要な備品等の設置など問題なく出来た。

(6) 医療機関への入院が長期間にならないよう職員間の情報共有を図ります。

↓

利用者の状態など情報提供だけではなく、職員間で利用者にとって一番いい対応に繋げて行くための意見交換が必要である。

2. 高品質なサービスの提供

(1) リスクマネジメントに対する意識の強化

① マニュアルの作成、更新、職員への周知徹底を行います。

↓

夜勤体制が2名から1名に変更になったことで夜間緊急時対応マニュアルを変更し、内部研修で職員に周知徹底を行った。

- ② 提出された事故・ヒヤリハット報告書に対し、迅速な防止策の検討および評価を実施します。
↓
随時実施した。
- ③ リスク管理委員会で事故対応マニュアルを定期的に見直し、職員への周知徹底を図ります。
↓
定期的なマニュアルの見直しは出来なかった。
- ④ 事故発生後の迅速且つ適切な対応を行います。
↓
事故後の状態観察やバイタル測定を行い、応急処置や必要時には病院受診を行った。
- ⑤ 重大事故が発生した場合は、対応策等を職員全体で協議する場を設けます。
↓
今年度は協議するような重大事故は発生しなかった。
- ⑥ 利用者の心身の状況把握に努め、ヒヤリハット報告書の重要性を理解した上で他職種との情報共有を図り、事故を未然に防ぐように努めます。
↓
ヒヤリハット報告書を基に事故を未然に防止することが出来た。
- ⑦ 利用者の心身の状況把握に努め、変化時は早急にカンファレンスを実施し、サービス内容の変更を行います。
↓
利用者の細かな状況変化について情報を共有することは出来たが、今後職員不足の状況が予測されることから、更に職員間の声掛けを細かに行う必要がある。
- ⑧ 利用者の状態に適した居室の検討と随時移床の検討を行います。
↓
随時実施した。
- ⑨ 退院予定者の状態把握と各職種への伝達を行います。
↓
感染防止のため入院先の病院で面会が出来なかったことで状態把握が困難であったが、電話で得た情報を各部署に伝達することは出来た。今年度の入院者数は少なかったものの死亡退院になるケースが多かった。
- ⑩ 利用者の状況を把握し、安全な食事の提供に努めます。
↓
食事摂取量が少ない・嚥下不良・疾病や歯の不具合等のある方については職員間でカンファレンスを実施し、食事形態を変更するなどして安全な食事の提供に努めた。
- ⑪ 厨房内の環境整備、職員の腸内細菌検査の実施と、食中毒予防について利用者への啓発を行います。
↓
環境整備については上半期は実施出来たが、下半期は職員数減少に伴い実施出来なかった。腸内細菌検査は毎月問題なく実施した。食中毒予防についてはホーム会で啓発を行い、持ち帰りが多い利用者については職員間で情報を共有した。
- ⑫ 新型コロナウイルスを含む感染症の予防に努めます。感染症に応じた適切な対応が行えるよう感染症マニュアルの把握・手順を徹底し、感染拡大を防止します。
↓
新型コロナが5類に位置づけされた後も利用者が罹患することはなかったが、今後も地域の感染状況を把握し、感染防止に努める。感染症については状況が変化するため、状況に応じてその都度マニュアルを見直す。
- ⑬ 感染予防のため、利用者へのマスク着用・手指消毒の声掛けを行い、居室・手摺り・歩行補

助具などの消毒や換気・検温を行います。

↓

新型コロナが5類になったことで5月15日から検温は中止にしたが、通所サービスを利用される方については継続して実施した。家族等の面会は本館玄関面会室で短時間で行ってもらい、居室以外でのマスクの装着、定期的な換気・手摺りの消毒は継続して実施した。

- ⑭ 健康診断およびワクチン接種を実施します。

↓

年2回の健康診断は5月と11月、胸写は9月に実施した。新型コロナワクチンについては5回目を6月23日、6回目を12月1日にインフルエンザワクチンと同日接種で行った。

- ⑮ 要望・苦情等に対する迅速かつ適切な対応および情報開示(苦情解決第三者委員への報告会の実施 10月・4月)を行います。

↓

苦情解決第三者委員報告会を11月8日と5月9日に実施した。

- ⑯ 高齢者虐待防止と拘束(抑制)廃止について毎月検証を行い、職員への周知徹底を図ります。

↓

検証については毎月委員会で実施し、2月21日に高齢者虐待防止と拘束(抑制)廃止の内部研修を実施した。

- ⑰ 利用者の預り金等に係る管理・事務処理業務を適切に行います。

↓

問題なく出来た。

(2) サービスの質の向上を図る

- ① 新型コロナウイルスに関して感染防止対策委員会で決定した事項(外出や面会の制限等)については、利用者および家族に説明を行い理解を求めます。

↓

感染防止対策委員会は4月と5月に開催したが、決定した事項については利用者に説明を行い、面会については問い合わせのあったご家族にその都度説明を行った。

- ② 自立支援計画に基づいたサービスの提供および評価を行います。

↓

ケース委員会については職員数の減少により、計画書の回覧方式に変更して実施し、問題なく出来た。

- ③ 接遇マナーの向上に取り組み、利用者の尊厳を傷つけない対応を心がけます。

↓

新人職員の入職に伴い個々の接遇対応について振り返るきっかけとなり、お互いに注意や反省を行う姿勢が見られた。

- ④ 業務内容の見直しを随時行い、現状に沿った効率の良い業務改善を行います。

↓

職員数の減少に伴い業務の見直しを行ったが、今後も状況に応じて見直しが必要である。

- ⑤ 個々の状況に応じた食事内容の検討と、他施設との情報交換を活かし、コロナ禍での行事食の充実を図ります。

↓

利用者の状態に応じてカンファレンスを実施し状態改善に努めた。南ブロックの栄養士情報交換会に定期的に参加し、食事に関する意見交換を行うことが出来た。

- ⑥ 新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの行事の実施およびニーズに合わせた個別的な支援を行います。

↓

三条サマーフェスティバルについては、新型コロナの感染状況から三条区と双葉それぞれで実施することとし、三条区には不足している物品の貸し出しを行った。双葉については初めて秋祭りを実施し、利用者も楽しんでいた。

- ⑦ 福祉サービス第三者評価の受審結果に対する改善計画に取り組みます。

↓

人員不足により十分な取り組みは出来なかった。

- ⑧ 介護保険サービス利用時の各事業所との連絡調整を密に行います。

↓

随時実施した。

- ⑨ 利用者の心身状況にあった施設等への住み替えを実施します。

↓

前年度からの取り組みとして5月に住み替えを終了した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成と確保

- ① 関係法令に基づく適切な労務管理を行い、職員の不合理が発生しないように努めます。

↓

問題なく出来た。

- ② コロナ禍でも県の委託事業などの検査等を積極的に活用し、職員の安全確保に努めるとともに、感染が疑われる場合などは安心して療養に専念出来る環境整備に努めます。

↓

感染症対策の検査などを積極的に活用した結果、利用者に感染者は出なかった。職員・同居家族が数名罹患されたが、自宅待機・出勤停止期間を経て出勤出来る体制作りが出来ていた。

- ③ 新型コロナウイルス感染状況を見ながらの外部研修や内部研修(法人合同研修)への参加、内容の充実を図ります。

↓

内部研修は計画通り実施し、法人研修もネット環境が整ったことでリモートで参加した。

- ④ 専門職としての知識や経験をお互いに尊重しあい、意欲の向上に繋がるよう努めます。

↓

新人職員の入職があったことで新しい意見を取り入れることが出来、経験にこだわらず初心に返って取り組むきっかけとなり、互いの意欲を高めることが出来た。

- ⑤ 職員個々が何でも言える関係づくりと、笑顔で働けるアットホームな職場づくりを目指します。

↓

職員数の減少もあり、業務中に互いに声を掛け合い、協力して業務を行っていた。

- ⑥ 他職種とも情報を共有しながら連携を取り、お互いが協力し合える職場づくりを目指します。

↓

職員数が減少したことで他部署の協力なしでは業務が回らない状況であったため、協力体制を整えるためにも、まずは他の部署の業務内容を把握し理解することから努力した。

- ⑦ 定期的な職場環境のチェックを行うとともに現場職員の意見を取り入れ、問題点の早期発見と解決に繋げるよう努めます。

↓

些細なことでも気付いたことは言葉に出して提案し、より良い方向へ繋がるよう意見交換を行うことが出来た。

- ⑧ 職種ごとに技術・知識向上を目的とした勉強会を行います。

↓

どの部署も実施出来なかった。

4. 地域貢献

(1) 地域、社会貢献(公益的活動)に対する積極的取り組みと参加

- ① 新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域住民とともに行う活動に参加します。

(クリーンデー6月・12月、餅つき12月、ほんげんぎょう1月)

↓

クリーンデーは利用者と共に参加したが、餅つき・ほんげんぎょうの手伝いは人員不足と感染症の問題もあり参加出来ず、積極的な地域貢献は出来ていない。

- ② 新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、食を通して地域との交流を図ります。

(非常食訓練、夏祭り、出前講座)

↓

今年度も厨房としての地域活動への参加は出来なかった。

- ③ 地域の子どもや学生と絵手紙等での交流を図ります。

↓

新型コロナ感染予防対策もあり、地域の子どもや学生との交流は出来なかったが、他施設との交流において、利用者間で壁面(貼り絵)の交換を行った。

(2) 被虐待高齢者等に対する緊急保護入所の受け入れおよび心のケア

- ① 緊急保護入所の依頼があった際には関係各機関と連携を取り、スムーズな受け入れを行うとともに、次の行き先が決まるまでの間の心のケアや健康観察など出来る限りの支援を行います。

↓

今年度は3名(筑紫野市男性、大野城市男性、大野城市女性)の受け入れを行った。次の行き先が決まるまでの間本人に寄り添い、関係各機関との連携も行うことが出来た。

- ② 緊急保護入所の際は抗原検査を受けていただき、必要に応じて隔離期間を設けるなど柔軟に対応していきます。

↓

受け入れ時に施設で新型コロナの検査を簡易キットを使って実施し、医療面(内服薬を含む)、生活面全般の情報収集を行い、受け入れ後も健康観察に努めた。

- ③ 緊急保護の受け入れがスムーズに出来るよう、寝具・衣類等の確保を行います。

↓

日頃から保管庫の整理を行っていたことでスムーズに対応出来た。

利用者状況

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	5
退所者数	1	2	2	2	0	2	2	0	0	1	0	1	13
月初在籍者数	69	68	68	66	65	65	63	62	62	62	61	61	772
稼働率	88.5%	87.2%	87.2%	84.6%	83.3%	83.3%	80.8%	79.5%	79.5%	79.5%	92.3%	92.3%	84.8%

②要介護度 令和6年3月31日現在

要介護1	10	16.4%
要介護2	7	11.5%
要介護3	2	3.3%
要介護4	0	0.0%
要介護5	1	1.6%
要支援	10	16.4%
認定なし	31	50.8%
合計	61	100.0%

③年齢 令和6年3月31日現在

	男性	女性	全体
最高年齢	93	97	97
最低年齢	69	67	67
平均年齢	78.8	84.3	81.7

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	5	6	9	9	8	9	10	9	4	12	7	8	96
転落	1	0	1	3	1	3	0	1	5	5	3	5	28
介護中の事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
離設	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	5
利用者同士のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
その他	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5
合計	7	9	10	12	10	12	13	10	9	20	10	14	136

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

行事実施状況

月	日	行 事	利用者数	
4	4	光の間(集会所)清掃	4	
	5	県議会議員選挙期日前投票	3	
	7	ナイスラン美容室	—	
	10	遊びリテーション	14	
	12	おやつ会	—	
	14	移動図書	—	
	15	訪問販売	—	
	17	散髪	—	
	19	とくし丸販売、誕生食	—	
	24	あいさつ通り清掃	5	
	26	ホーム会	54	
	28	移動図書	—	
	5	2	光の間(集会所)清掃	4
		8	遊びリテーション	15
10		防災(風水害)訓練、おやつ会	9	
12		ナイスラン美容室	—	
13		訪問販売	—	
15		散髪	—	
17		とくし丸販売、誕生食	—	
19		移動図書	—	
22		あいさつ通り清掃	5	
24		ホーム会	52	
6	31	とくし丸販売、梅ちぎり	7	
	1	移動図書、ナイスラン美容室	—	
	4	クリーンデー	7	
	6	光の間(集会所)清掃	6	
	7	とくし丸販売	—	
	10	訪問販売	—	
	12	遊びリテーション	13	
	14	おやつ会、学業院中学校職場体験学習(1日目)	—	
	15	学業院中学校職場体験学習(2日目)	—	
	16	移動図書	—	
	19	散髪	—	
	21	とくし丸販売、誕生食	—	
	26	あいさつ通り清掃(雨天中止)	—	
28	ホーム会	49		
7	4	光の間(集会所)清掃	6	
	5	とくし丸販売	—	
	7	ナイスラン美容室	—	
	8	訪問販売	—	
	10	散髪、遊びリテーション(避難所開設のため中止)	—	

月	日	行 事	利用者数	
7	12	消防訓練(夜間想定)、おやつ会	15	
	14	移動図書	—	
	19	とくし丸販売、誕生食	—	
	24	あいさつ通り清掃	6	
	26	ホーム会	50	
	28	移動図書	—	
	8	1	光の間(集会所)清掃	5
2		とくし丸販売	—	
4		ナイスラン美容室	—	
7		散髪	—	
9		お盆法要、おやつ会	21	
10		移動図書(台風のため中止)	—	
12		訪問販売	—	
14		遊びリテーション	12	
16		とくし丸販売	—	
23		ホーム会、誕生食	50	
28		あいさつ通り清掃	6	
9		1	移動図書、ナイスラン美容室	—
		5	光の間(集会所)清掃	7
	6	とくし丸販売	—	
	9	訪問販売	—	
	11	遊びリテーション	14	
	11	散髪	—	
	14	おやつ会、嗜好調査	—	
	15	移動図書	—	
	16	彼岸法要	19	
	18	寿老の集い	—	
	20	とくし丸販売	—	
	25	あいさつ通り清掃	5	
	27	ホーム会	53	
	29	移動図書	—	
30	胸部レントゲン撮影	59		
10	3	光の間(集会所)清掃	6	
	4	とくし丸販売、施設内消毒	—	
	6	ナイスラン美容室	—	
	11	防災訓練(非常食調理)	—	
	13	移動図書	—	
	14	訪問販売	—	
	16	散髪	—	
18	とくし丸販売、誕生食	—		
23	あいさつ通り清掃	7		

月	日	行 事	利用者数
10	25	ホーム会	48
	26	お月見会	32
	27	移動図書	—
11	1	とくし丸販売	—
	3	ナイスラン美容室	—
	7	光の間(集会所)清掃	5
	8	秋祭り	—
	10	移動図書	—
	11	訪問販売	—
	13	遊びりテーション	16
	15	とくし丸販売	—
	20	散髪	—
	22	ホーム会	47
	24	移動図書	—
	27	あいさつ通り清掃	7
	29	防災(地震想定)訓練、誕生食	29
12	1	ナイスラン美容室	—
	3	クリーンデー	6
	5	光の間(集会所)清掃	5
	6	とくし丸販売	—
	8	移動図書	—
	9	訪問販売	—
	11	遊びりテーション	15
	13	年忘れ食事会	—
	15	ミニドライブ(安の里公園)	10
	18	散髪	—
	20	とくし丸販売	—
	22	移動図書	—
	23	餅つき、クリスマスおやつ会	—
	25	あいさつ通り清掃	6
	27	ホーム会	46
1	1	新年祝賀会	—
	9	光の間(集会所)清掃	5
	10	とくし丸販売、おやつ会	—
	12	ナイスラン美容室	—
	13	訪問販売	—
	15	散髪	—
	17	消防(昼間想定)訓練	22
	19	移動図書	—
	22	あいさつ通り清掃(雨天中止)	—
	24	とくし丸販売、誕生食	—

月	日	行事	利用者数
1	25	ホーム会	39
2	2	移動図書、ナイスラン美容室	—
	3	節分(豆まき)	—
	6	光の間(集会所)清掃	4
	7	とくし丸販売	—
	10	訪問販売	—
	14	おやつ会	—
	16	移動図書	—
	19	散髪	—
	21	とくし丸販売、誕生食、雛飾り	—
	26	あいさつ通り清掃	4
	28	ホーム会	43
3	1	移動図書、ナイスラン美容室	—
	5	光の間(集会所)清掃	3
	9	訪問販売	—
	11	遊びリレーション	15
	13	とくし丸販売	—
	16	施設内消毒	—
	18	散髪	—
	25	お花見会、あいさつ通り清掃(雨天中止)	—
	27	とくし丸販売	—
	28	ホーム会	46
	29	移動図書	—

施設内研修実施状況

開催年月日	研修内容	参加職種	参加人数
令和5年4月6日	全体会議(令和5年度事業計画等)	施設長、看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	27
令和5年5月31日	緊急時の対応、食中毒予防	看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅	18
令和5年6月13、16、24	新任職員研修	支援員	3
令和5年7月25日	法人合同研修(介護現場のリスクマネジメントについて)	看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	25
令和5年8月23日	法人合同研修(ハラスメント)	看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	20
令和5年9月13日	接遇	看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	25
令和5年12月14日	法人合同研修(メンタルヘルスケア)	看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	19
令和6年1月26日	夜間緊急時対応(夜勤・宿直従事者対象)	看護師、支援員、事務員、相談員、居宅	15
令和6年2月21日	高齢者虐待防止、身体拘束廃止、個人情報保護	看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	20
令和6年3月13日	防犯研修(筑紫野警察署 生活安全課防犯係係長 田中義彦氏)	施設長、看護師、支援員、厨房、事務員、相談員、居宅、訪問	17

施設外研修参加状況

開催年月日	研修名	主催者	参加職種	人数
令和5年4月28日	入浴施設における衛生管理等講習会	福岡県保健医療介護部介護保険課	相談員	1
令和5年6月23日	スチコンを活用した3大アレルギン不使用メニューのコツ	(株)コミットカトウ	調理員	1
令和5年7月1日	ヤクルト「たのしい給食」栄養士WEBセミナー2023	(株)ヤクルト本社	栄養士	1
令和5年8月29日	令和5年度食中毒予防シンポジウム	福岡県食品衛生協会	調理員	1
令和5年9月28日	南ブロック令和5年度第1回栄養士情報交換会(WEB)	福岡地区老人福祉施設協議会	栄養士	1
令和5年10月19・20日	九州老人福祉施設職員研究大会	九社連老人福祉施設協議会	支援員	1
令和5年11月22日	令和5年度養護部会セミナー	九社連老人福祉施設協議会	施設長・相談員	2
令和5年11月24日	南ブロック令和5年度第2回介護職情報交換会(WEB)	福岡地区老人福祉施設協議会	支援員	1
令和5年11月27日	令和5年度災害対策セミナー	福岡県老人福祉施設協議会	相談員	1
令和5年12月8日	スチコン使いこなしが学べる！クリスマスメニューとアレルギー対応おやつ	(株)コミットカトウ	調理員	1
令和6年1月19日	南ブロック令和5年度第2回栄養士情報交換会(WEB)	福岡地区老人福祉施設協議会	栄養士	1

ボランティア来園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
サークル指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回

実習受け入れ状況

期間	学校名	人数
令和5年6月14日～15日	学業院中学校職場体験学習	4

令和5年度 ヘルパーステーション双葉 事業報告

I 事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

II 施設目標

各関係機関と連携し、ご利用者様が住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援します

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1)ご利用者、ご家族との信頼関係を築き、安心してサービスを受けて頂けるよう努めます。

↓

実施できた。

(2)受け入れ体制を整え、安定した事業所運営に努めます。

①年間平均利用者数、要介護40名、要支援38名を目指します。

↓

事業縮小(休止)案が出ていた為、目標達成は出来なかった。

(3)居宅支援事業所および太宰府市、宇美町、須恵町、筑紫野市の包括支援センターへアプローチを行い、新規ご利用者確保に努めます。

①受け入れ体制が整った場合、登録ご利用者が減った場合、速やかにアプローチを行います。

↓

上記同様。

2. 高品質なサービスの提供

(1)訪問介護サービスの統一を目的とした「訪問介護サービスの基本マニュアル」および「訪問介護サービスに係る業務手順書」の作成と見直しを行います。

↓

軽微なサービス内容の変更時の対応が出来ていなかった。

(2)ご利用者様の状態に変化があった際は、速やかに関係機関に連絡しサービス内容の検討を行います。

↓

実施出来た。

(3)出社前の検温、入退室時の手指消毒、手洗いを徹底し、感染予防に努めます。

↓

実施出来た。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1)各団体等が開催する研修会(WEV 研修含む)に参加し、専門性を高めます。

↓

研修開催日と訪問日が重なることが多く、調整が出来なかった。

(2)研修計画に基づき、事業所内研修を実施します。

↓

実施出来た。

(3)事業所内にて話をしやすい環境作りに努め、意見や不満を聴く場を設けます。

↓

会議内での意見交換やサービス時の対応の仕方など常に確認、声掛け出来た。

4. 地域貢献

(1)在宅福祉サービスの充実と地域に密着したサービス提供を推進します。

↓

ご利用者、ご家族の意向に沿ったサービスや提案は実施出来た。

○ 令和5年度 訪問介護/ホームヘルプステーション ふたば の利用状況

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均数
①登録者数	総合事業	35	32	32	33	36	38	39	42	42	43	44	44	460	38.33
	要介護者	27	26	26	29	32	31	31	31	31	31	30	29	354	29.5
	事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
登録者合計		62	58	58	62	68	69	70	73	73	74	74	73	814	67.83

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均数
②サービス提供 状況(延数)	予防(総合)	149	163	167	150	175	166	195	182	202	194	190	201	674	56.1667
	生活サービス	67	46	42	45	56	52	63	67	63	59	60	54	674	56.17
	身体サービス	84	80	75	70	79	75	78	80	63	68	68	66	886	73.83
	身体+生活	48	47	64	64	64	66	66	66	76	89	90	83	823	68.58
	合計	348	336	348	329	374	359	402	395	404	410	408	404	4517	376.42

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均数
③1日の利用数	11.6	10.8	11.4	10.6	12.1	12.0	13.0	13.2	13.0	13.2	14.1	13.0	148	12.33

令和5年度 ケアプランセンターふたば事業報告

I 事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

II 施設目標

圏域の福祉情勢を把握し事業の安定した運営に取り組む

III 具体的計画

1. 利用率の向上

幅広く利用者の困りごとの相談を受け、可能な限り在宅で自立した日常生活が送れるように支援します。

(1) 地域包括支援センターへの定期訪問によるPRを実施。

↓

定期的に積極的なPRは出来た。区分変更時のサービス担当者会議参加依頼が多く、取りこぼす事無く参加出来た。

(2) 月次平均登録利用者数85名(内要支援15名)の確保。

↓

新規利用者確保すると同時に利用者の死亡や入院、入所などが相次ぎ目標には届いていないが、4月より20名以上が増加した。

(3) サービス提供事業所からの地域情報及び利用者情報の獲得。

↓

他法人と連携を取ることで、職員離職時の利用者引継ぎをまかせて頂く事例が多くあった。

2. 高品質なサービスの提供

介護保険法の順守と感染症拡大予防策を講じ、介護支援専門員としての資質向上を目指して、より良いサービスを実施します。

(1) 介護保険法の順守と適切な個人情報管理の実施。

↓

介護保険法の順守と個人情報は適切に管理出来た。

(2) 介護保険適正化事業への理解と協力。

↓

ケアプランチェックに協力し適切に対応出来た。

(3) 行政からの通知による感染症拡大予防対策の徹底。

↓

原則、各市町村の通知に沿った対応行い、訪問時は感染症予防対策(マスク、消毒、短時間訪問)の徹底を実施。

(4) 感染症予防対策、高齢者虐待、認知症対応、人権同和問題の研修参加。

↓

太宰府市内の講習会に参加。十分に参加出来ているとは言えないが事業所内での研修で補った。

3. 働きやすい職場づくり・人材の育成と確保

“褒め合う、教え合う、競い合う”気持ちでお互いに研鑽を重ねていきます。

(1) 定期的な勉強会を通じ、仕事や職場環境の問題点を把握し改善点の意見交換を実施。

↓

特定事業所加算を算定していることもあり、勉強会を含め様々な意見交換は出来た。

(2) 個人の作業量や困難事例を認め負担軽減に協力する。

↓

各自の困難事例進捗状況を報告し、事業所内で共有する事で精神的な緩和と負担軽減に努める事が出来た。

(3) 他居宅介護支援事業所との意見交換や情報収集の実施。

↓

他居宅介護支援事業所と勉強会を開催。新しい事業所とつながりを持たせた。

(4) 外部研修(WEB含む)への積極的参加と事業所内のフィードバック。

↓

適宜研修には参加出来ていた。

4. 地域貢献

居宅介護支援事業所として出来る地域貢献(公益的活動)を推進します。

(1) 養護老人ホーム双葉と地域の自治会、介護保険事業所との共生、地域行事への参加の推進。

↓

単独で動くことが出来ず地域行事には参加出来ていない。

(2) 太宰府市社会福祉協議会主催の福祉まつりやボランティアの参加。

↓

養護老人ホーム双葉の手伝いとして参加する予定としていたが、以前のような参加が見込めず手伝いも出来なかった。

令和5年度活動報告

ケアプランセンターふたば

①令和5年度利用者実績者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護 1	15	20	23	24	25	26	32	29	30	29	27	29	309
要介護 2	21	22	20	19	19	20	21	20	22	22	24	24	254
要介護 3	10	12	7	6	7	7	9	10	10	10	9	9	106
要介護 4	4	6	5	5	5	5	4	4	4	3	3	3	51
要介護 5	4	6	4	4	5	4	5	5	6	4	4	4	55
要介護 合計	54	66	59	58	61	62	71	68	72	68	67	69	775
要支援 1	8	6	6	6	6	6	6	5	5	7	6	6	73
要支援 2	10	11	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	120
要支援 合計	18	17	16	15	16	16	16	15	15	17	16	16	193
総合計	72	83	75	73	77	78	87	83	87	85	83	85	968

②令和5年度研修及び活動報告（4月～9月）

	開催日	開催時間	参加者	研修内容
4月	8・14・22・27		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	3	10:30～11:10	屋敷	第1回防災対策委員会
5月	6・10・27・29		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	1	10:30～11:10	屋敷	第2回防災対策委員会
	9	10:30～11:10	屋敷	令和4年度【第2回苦情解決第三者委員会】報告会
	10	10:30～11:30	屋敷・池野	防災訓練（風水害・土砂災害）
	16	10:00～12:00	屋敷・池野・小清水	第1回太宰府市介護支援専門員情報交換会
6月	10・17・23・30		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
7月	8・15・22・25		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	8	10:00～11:45	屋敷・池野・小清水	太宰府市市民後援会『差別の現実に深く学ぶ』
	25	19:00～20:00	屋敷・池野・小清水	法人合同研修会(1回目)
8月	4・12・18・23		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	3	10:30～11:05	屋敷	第3回防災対策委員会
	18	10:00～12:00	屋敷・池野	第2回太宰府市介護支援専門員情報交換会
	23	19:00～20:00	屋敷・小清水	法人合同研修会(2回目)
9月	8・13・22・29		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	13	18:45～19:15	屋敷・池野・小清水	法人内部研修(接遇について)

②令和5年度研修及び活動報告（10月～3月）

10月	7・13・20・23		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	2	15:30～16:10	屋敷	第4回防災対策委員会
	11	10:45～13:00	屋敷	防災訓練【非常食調理】
11月	4・15・17・24		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	17	10:00～12:00	屋敷・小清水	第3回太宰府市介護支援専門員情報交換会
12月	8・14・23・30		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	1	15:30～16:10	屋敷	第5回防災対策委員会
	14	19:00～20:00	屋敷・小清水	法人合同研修会(3回目)
1月	5・12・17・26		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
2月	2・10・17・20・21		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	20	10:00～12:00	屋敷	第4回太宰府市介護支援専門員情報交換会
	21	18:45～19:15	屋敷・池野	法人内部研修(コンプライアンス関連について)
3月	5・13・22・30		屋敷・池野・小清水	居宅勉強会
	13	18:45～19:15	屋敷・池野	法人内部研修(防犯研修)

令和 5 年度 介護老人保健施設若杉の里 事業報告

I 事業目標

「経営の充実と安定した運営に取り組む」

II 施設目標

1. 令和 6 年度に行われる介護報酬改正対応として、老人保健施設の方向性、介護報酬等の情報収集を行い、収支バランスの取れた経営に向けて取り組む。
2. 新型コロナウイルス、インフルエンザのクラスターを発生させた経験を生かし、感染防止対策を引き続き取り組むと同時に、地域の感染状況を把握しながら施設外行事等を行う。

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 利用者確保に努める

- ① 医療機関、居宅介護支援事業所等各関係機関を定期的に訪問し、事業所特性や状況、空床状況等を知らせ、紹介率アップを図ります。

また、これまで訪問してきた事業所のみにとどまらず、新しい訪問先等も検討し、幅広い関係作りに努めます。

↓

各事業所等関係機関からの相談時には入院期限や緊急度等を確認しながら、入所までのプロセスを調整し、紹介率アップを図ったが、感染症の流行の影響もあり、紹介率アップを図ることはできなかった。医療機関・ケアマネへの営業活動を再開するとともに、各種資料の郵送は、引き続き「利用状況、行事の紹介」を行いながら、引き続き利用者確保を図った。

- ② 法人内他事業所との連携を図ります。特に養護老人ホーム双葉の定員変更に伴う利用者転居がスムーズに行えるよう最大限の協力をします。

↓

随時、情報交換を行ってきた。一部、入所受け入れが困難な場合は、理由、状況等をきちんと伝え対応してきたが、感染症の流行の影響により、スムーズな入所を実施することは困難であったが、クラスター終息後は、施設間の情報共有を図り受け入れを行った。

- ③ 初回相談から入所までのプロセスをできるだけ短縮できるよう調整を行います。

↓

業務スケジュール等を調整しながら空床期間の短縮を図ったが、感染症の流行もあり、入所までつながらないケースがあった。

- ④ 入所希望者の緊急性や状況を把握し柔軟な対応を行います。

↓

対象者の緊急性や状況を把握し柔軟な対応を心掛けたが、感染症の流行の影響により、情報収集、柔軟な対応を行うことが困難な時期もあったが、終息後は緊急性や状況を把握し柔軟な対応を行った。

- ⑤ 施設全体で毎月の収支状況の情報を共有し、予算に対する適正な支出及び執行状況の把握を行います。

↓

毎月の利用状況、収支状況を把握し適切な補正等を行いながら支出の執行を行った。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) 利用者・家族の個別性を理解し、個々の安全・安楽な施設生活を保障する。
- ① 入所前面接では、心身状況と共に、これまでの生活スタイル、環境など個別性を引き出せるよう情報収集をするとともに、関係職種にて情報共有に努めます。
- ↓
- 施設によっては入所面談自体を行うことが困難な時はあったが、そのような場合は電話等での聞き取りを行い、情報共有と詳細な情報収集を行うことが出来た。
- ② 各々が専門性を常に意識し、多職種との連携を密にし、利用者の望む生活を提供します。また、利用者の心身の状態把握に努め、自律を支援するサービスを提供します。
- ↓
- 多職種との、情報交換に努めると共に、利用者へ生活に関する情報収集に努め、状態変化時は、速やかにカンファレンスを実施し、提供サービスの変更を行った。また、利用者とのコミュニケーションを図る事で、利用者が望む生活、自立した生活を少しでも提供する事が出来た。
- ③ 個別性のあるケアプランの立案とアセスメント記録の充実を図り、質の高いサービスを提供できるよう努めます。
- ↓
- 利用者個々のニーズを生かした生活をめざし、個別性を生かしたケアプランを意識してきた。プラン作成時の担当者会議において、感染症の流行も視野に、各専門職の連携を図ってきた。
- ④ ターミナルケアの理解を深め、その人らしい最期を迎えることができるよう努めます。
- ・終末期における治療方針の理解と情報共有を行います。
- ↓
- 病状悪化の段階で施設医師の見解を確認のうえ、ご家族には、感染症の流行に伴い、電話での対応を行ったが、対面での説明が必要なケースでは、感染症対策を行い、来所を促しインフォームドコンセントの機会を設定し、看護、介護職員だけではなく、多職種共に情報共有を行った。
- ・対象およびご家族に寄り添う姿勢の堅持と、チームコンセプトの確立を行います。
- ↓
- ベッド状況によるところはあるが、ターミナル期はできるだけ個室環境とし、ご家族休息用のソファやベッドを準備するなど行い、利用者・ご家族に満足していただける、ターミナルケアを提供することが出来た。
- ・終末期の利用者・ご家族へ支援内容を常に検討し、統一したアプローチを行います。
- ↓
- 利用者個々のニーズを生かした生活をめざし個別性を生かしたケアプランを意識してきた。プラン作成時の担当者会議において、各専門職の連携を図り、統一した、アプローチを行った。
- ⑤ 状態・病状等の変化に伴うインフォームドコンセントの実施と明確な記録を行います。
- ↓
- 初回のインフォームドコンセントは適切な時期に実施できた。記録については、日々の看護、介護記録、プランに沿った記録、インフォームドコンセント実施時の記録ともに詳細に残すよう心掛けた。
- ⑥ 利用者、ご家族が抱えている潜在的なニーズを引き出せるよう意図的な関わりを意識します。また、苦情・要望等に対しては真摯に受け止め、施設全体で解決に向け努力します。
- ↓
- 利用者、ご家族が抱えている潜在的なニーズを引き出せるよう意図的な関わりを行う事とし、利用者・ご家族からの、苦情・要望には、施設全体の問題として、解決に向けて取り組んだ。
- ⑦ 介護ロボットの導入により、日頃の健康管理、及び状態悪化維持迅速な対応を図ります。
- ↓

業者との面談・事務所との打ち合わせ等も行えず、介護ロボとの導入には至っていない。

- ⑧ 口腔衛生管理について、歯科医師または歯科衛生士より指導を受け、口腔衛生の管理に関わる計画を作成し、計画に基づいて実施します。

↓

計画書の作成、計画書に基づいての実施は行った。

- ⑨ 認知症ケア対応両区の向上を目的とし、内部研修、外部研修(オンライン研修の活用)に、職員を参加させると共に、新規採用職員へは、入職時に研修を実施します。

↓

内部研修は予定通りに行えたが、外部研修までには至らなかった。新規採用職員については、採用時に実施した。

(2) コロナ禍におけるサービス提供。

- ① 新型コロナウイルス感染予防対策に重点を置き備品・消耗品の確保、ワクチン接種、家族面会の制限等行いながらリアルタイムに対策を行います。施設内で感染が判明した場合を想定しBCP(業務継続計画)の見直し等、感染拡大予防対策、サービス提供の確保を図ります。

↓

新型コロナウイルス感染予防対策に重点を置き備品・消耗品の確保、ワクチン接種家族面会の制限等行いながらリアルタイムに対策を行った。

- ② 施設内で感染が判明した場合を想定しBCP(業務継続計画)の見直し等、感染拡大予防対策、サービス提供の確保を図ります。

↓

施設内で感染が判明した場合を想定しBCP(業務継続計画)の見直し等、感染拡大予防対策を行った。

- ③ コロナ感染症の最新情報の習得を行い感染防止に努めます。

↓

定期的に感染症対策委員会を開催し、最新情報の収集は行った。

- ④ 各部署と連携し、コロナ禍における利用者・家族のストレスの緩和に努めます。

↓

各部署と連携し、コロナ禍における利用者・家族のストレスの緩和に取り組んだ。

(3) 本人らしい生活が送れるようADLに沿ったリハビリに取り組む。

- ① ポジショニング・シーティングを行い、安楽・快適な姿勢(肢位)を提供し、各ADL場面でのアプローチを行います。

↓

定期的な見直しを行い提供できているが、各フロアにおいての統一・定着は不十分である。今後も指導・継続が必須である(必要性の理解を深める)

- ② 認知症予防や進行防止に対するアプローチを行います。

↓

脳トレ問題・棒体操・各種レクリエーション等実施し定着してきており、今後も継続していく。

- ③ 個々の生活歴や生活様式を踏まえたアプローチを行います。

↓

定期的・随時のカンファを行い、個々のニーズに沿った生活リハビリが実施できた。各フロアにおいて、状態変動時のカンファ開催がなかなか出来ておらず、今後検討が必要である。

- ④ 各部署との情報共有を図り、ケアプランと連動するアプローチを行います。

↓

ケアカンファ・モニタリングや他カンファにも参加しケアプランと連動する
リハビリプログラムを提供できた。(リハ部署内においても申し送りを徹底し共有に努めた)

- ⑤ 看取り対象者・家族へのリハビリや支援の内容を常に検討し、統一したアプローチを行います。

↓

各フロアのカーデックス確認や申し送りにて、状態の把握・情報の共有が図れアプローチできた。各スタッフとも協力し家族との関りも持てており今後も継続していく。

(4) 食生活の質を高める。

- ① 多職種からの情報提供により、利用者の状態に合わせて、栄養補助食品を積極的に取り入れ、栄養状態の改善を行います。

↓

利用者個々の身体状況や栄養状態について、各職種との情報交換を行いながら、利用者個々に適した栄養補助食品を提供することができた。また、栄養補助食品のみに頼らず、食事形態や食事提供量を見直すことで、適切なカロリー摂取等ができるように努めた。

- ② 利用者、家族、職員と意見交換を行い、栄養ケアマネジメントを実施し、利用者の健康状態、身体状況に合わせた食事を提供します。

↓

管理栄養士として直接利用者と話す機会を多く持つように心がけた。また、カンファレンス等を通し、利用者の健康状態等を把握し、状態にあった食事の提供に努めた。ご家族と直接話す機会は少なかったが、多職種からご家族の思い等について情報収集することで、ご家族のニーズを知るよう努力した。

- ③ 年間行事計画を立て、季節感、彩り考慮した食事メニューの充実を図ります。

↓

年間行事は、計画どおりに実施できた。特に季節感を感じることができるよう、食材や器、盛り付け等にも気を配った。

- ⑥ 行事食にお品書きを作成し、雰囲気づくりに努めます。

↓

季節感のあるお品書きを作成し、雰囲気づくりに努めた。

- ⑦ 適時適温に心掛けます。

↓

実施できた。

- ⑧ 毎日の食事形態表及び食事摂取表の作成と集計を行います。

↓

実施できた。

- ⑨ 定期的に給食委員会を開催し、厨房内の業務報告、意見交換会を実施します。

↓

毎月、給食委員会を開催し、厨房内業務報告、意見交換、インシデント事例に対する対策を検討するなど、業務改善や利用者サービスの向上に努めた。

(5) リスクマネジメントに対する意識強化と取り組み

- ① リスク防止に対し、常に最新の情報収集に努め、リスクマネジメントマニュアルの見直しを行います。

↓

研修やインターネット情報等を通し、最新の情報収集に努めた。また、その知識を生かし、リスクマネジメントマニュアルの見直しを行った。

- ② リスク委員会、身体拘束廃止委員会で、虐待防止について検討すると共に、年2回の研修を実施し職員へ虐待防止について、周知徹底を行います。
- ↓
- 新しい取り組みとして、虐待防止研修の一環で職員へ虐待についてのアンケートを行い、その結果を職員間で共有した。今後は、結果の共有にとどまらず、掘り下げたうえで研修等に生かしていきたい。
- ③ 事象事例のアセスメント能力を高め、原因追究姿勢を堅持し事故再発防止に努めます。
- ↓
- 多職種での事故カンファレンスを行うことで、各専門職の視点を生かした事故要因分析や対策をすることができた。
- ④ ご家族への適切なインフォームドコンセントを行い、予防カンファレンスを開催します。
- ↓
- 事故予防カンファレンスについては、高リスクの方など、一部のみしか実施できていない。時間がとれないではなく、時間をとる方法を探り、1事例でも多く実施できるように努めたい。
- ⑤ 物品・備品の安全点検・修理を定期的に行います。
- ↓
- 車椅子・歩行器・シルバーカー等の点検・修理は定期的に行っているが、全体的に劣化が著しく入れ替え対応ができていないものがある。
- ⑤ リハビリ実施時における人数調整や工夫を行います。
- ↓
- リハスタッフ内での打ち合わせや、他スタッフとも協力し事故なくできている。
- ⑦ リハビリ室の整理整頓を行います。
- ↓
- 整理整頓の徹底・他部署への声掛けにより危険回避ができた。
- ⑩ 厨房内のミーティングに参加し、衛生マニュアルの確認と確実な実施への指導を行います。
- ↓
- ミーティングには積極的に参加し、情報の共有・衛生マニュアルの実施指導に努めた。
- ⑪ リスク防止のため、正確に確認作業のマニュアルの作成を行います。
- ↓
- 適宜、マニュアルの見直しを行うなどで事故防止に努めた。
- ⑫ ゴキブリ駆除・排水管清掃を定期的実施します。また、厨房職員の月1回の検便を確実にを行います。
- ↓
- 実施できている。
- ⑬ 毎食配膳チェックを行い、配膳ミスを予防します。
- ↓
- 配膳ミス0(ゼロ)とはいかなかったが、ミスが起こった後速やかに要因を探り、改善に努めたことにより、減少している。
- ⑭ 介護報酬とサービス内容、契約内容の整合性を常に意識したサービス提供に努めます。また、加算等については正しく理解し、請求間違いないようにします。介護報酬・利用料請求時のチェックを確実にし、請求ミスがないように努めます。
- ↓
- 特に請求ミスもなく実施できた。
- ⑬ 行政主催等で実施されるリスクマネジメントの外部研修(オンライン研修の活用)、研修内容については、他職員に伝達する機会を設けるなどし、情報等を職員間で共有します。
- ↓

リスクマネジメント関係の研修へ参加はできなかったが、後半から導入された動画研修等を利用し、内部研修等を行い、情報共有に努めた。

- ⑭ 事故発生時の施設賠償保険対応を適切に行います。

↓

補償対象となる事故については、適切に実施できている。

(6) 感染予防に対する取り組み

- ① 感染症が発生した場合、業務継続計画(BCP)に沿った対応を行います。

- ② 感染対策マニュアルについては、日々の医療情勢に応じて柔軟に改訂・改善していきます。

また、マニュアルについては、全職員が理解し、業務遂行できるようにします。

↓

業務継続計画(BCP)や感染対策マニュアルについては、委員会活動等を通して、周知徹底に努めたものの、職員個々の理解度にはまだまだ差が生じている感が否めない。

特に、BCPに関しては、実地訓練等もできていないので、今後、職員個々の理解度を高め、周知徹底できる体制づくりに努める必要がある。また、BCP 実地訓練を行い、有事に備える必要性を感じている。

- ③ 感染症対策に対する意識の啓発・安全に業務を遂行する技能・チーム医療の一員としての意識向上を図るために、研修を年間2回以上行います。

↓

集合教育・動画研修等を行った。

- ④ 定期的に感染対策委員会を開催し、感染症予防に努めます。また、万が一、感染症が疑われる状況が発生した場合は、速やかに恵昭園との合同臨時感染対策委員会を招集し、拡大防止に全力を注ぎます。

↓

インフルエンザ等の感染拡大時期は特に、他、定期的に速やかに実施した。

- ⑤ 行政主催等で実施される感染予防対策の外部研修(オンライン研修の活用)に積極的に職員を参加させ、研修内容については、他職員に伝達する機会を設けるなどし、タイムリーな情報等を職員間で共有します。

↓

適宜、参加し、研修内容については、資料配布するなど、情報の共有に努めた。

- ⑥ 高齢者施設の職員としての自覚を持ち、感染予防に努めます。

↓

施設職員として、業務中だけでなく、家庭内、日常生活場面など、常に感染防止に努めた。

(7) 業務の効率化・改善への取り組み

- ① 利用者サービスの向上にむけて、勤務スケジュール等を適宜見直すなど、効率的な業務遂行ができるよう努力します。

↓

勤務スケジュールについては、適宜見直し等を行い、よりよいサービス提供に努めた。

特に、勤務者の欠員が生じた時などは、業務の優先順位を考え、また、他職種の応援を求めするなど対応した。

新型コロナ等の感染症発生時には、拡大防止のために、一時的にサービスを変更せざるを得ない状況もあった。(入浴中止など)

- ② 記録の内容、仕方、その他の業務内容の見直しを行い、サービスの質は担保されながらも、業務時間及び費用の省力化・効率化を図れるように努力します。

↓

記録の効率化の面では、タブレット等の導入準備段階でもあり、効率的とは言えなかったが、少しずつタブレット導入にも慣れており、今後は効率的な記録管理ができると考える。

(8) 非常時の対応

- ① 災害を想定した定期的な避難訓練、不審者侵入に対する防犯訓練等を行い、利用者の安全確保を行います。

↓

災害を想定した訓練は定期的実施できた。防犯については、防犯対策委員会活動はあったものの、訓練実施とまではいかなかった。

(9) 衛生管理

- ① 各種法令に対する衛生管理(水質管理、残留塩素等)を定期的に行います。

↓

実施できている。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- (1) 法人研修に参加し、キャリアパスとの連動を図ります。

↓

法人研修やキャリアパスとの連動は実施できておらず、今後の課題と言える。

- (2) OJTとリンクしたOFF-JTの実践と検証を行います。

↓

十分とはいえず、今後の継続課題と言える。

- (3) 副主任、リーダーを中心としたOJTを積極的に推進します。

↓

スタッフ数が十分ではない現状であるが、できる限りの指導は行っている。

特に、新規職員については、副主任等を中心に、中堅職員等も積極的に指導ができるように、既存の職員の能力・技術向上に努めた。

- (4) 実践的な感染予防研修を実施します。

↓

感染予防研修は実施したが、実践的な研修となてはいえない。ただ、感染症発生した時には、看護主任や各看護師が中心となり、全職員に感染対策を指導するなどし、実践的な感染対策指導ができた。

- (5) 成年後見制度、日常生活自立支援事業、介護保険制度等、支援に必要な知識の習得、向上に努めます。また、施設外研修の情報等を収集し、積極的に参加を図り、知識の向上に努めます。

↓

業務遂行にあたり、不明な点等については正確な情報を確認のうえ対応している。

- (6) 離職防止に努め職員確保を行います。

- ① 職員の日頃の言動に注意し、異変を感じた場合には、迅速に面談等を行い離職防止に努めます。

- ② 職員の身体的安全の確保や業務遂行に必要な技術の習得のサポートや環境整備を行います。

- ③ 職員のメンタルヘルスケアに施設全体で取り組みます。
- ④ パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等が起こらないよう、情報収集を行い、担当部署による早期解決を図る等、働きやすい職場環境を整えます。

↓

問題・課題が生じた場合に役職者等が面談を実施するなどの対応が中心となっており、日頃からスタッフの状況把握に積極的に努めているとは言えない。

今後の課題として、定期的に面談ができる体制づくりや、スタッフ自身からの相談がしやすい環境づくりに努める必要がある。

- (7) 各介助場面における技術・ボディメカニクスの指導を行います。

↓

各介助場面毎に指導を行っている。また、各フロアの副主任より要望あればその都度指導等対応できている。

- (8) 新人職員へ定期的な面談を行い、精神的フォローを行います。

↓

気になるスタッフ等に対しては、面談を実施するなどしてきたが、定期的な面談実施の体制は構築できていない。今後の課題である。

- (9) 資格取得のための支援(なぐにケアスクール等の受講料補助、受験日の勤務調整等)を行い全体のスキルアップを図ります。

↓

職員から希望があった場合は、勤務調整を行うなどで対応した。

- (10) 退職者に対する職員採用を図り、労働負担の軽減に努めます。

- (11) 労働基準法等の制度改正に対応した適正な労働環境の確保に努めます。

- (12) ライフスタイルに合わせた勤務形態、ダブルワーク行っているパート職員の採用等、多様な働き方に対する取り組みをおこないます。

↓

新規職員採用が厳しい現状ではあるが、学校訪問、就職説明会等への参加等、できる限りの対応をしている。

また、退職者が多く、欠員が増えた際は、派遣職員や派遣紹介職員を採用せざるを得ない状況であり、数名の採用を行った。

入浴介助専門や夜勤専従職員など多彩な採用形態を考えながら欠員補充に努めた。

- (13) 研修に積極的に参加し情報伝達を行います。(オンライン研修の活用)介助場面における技術・ボディメカニクスの指導を行います。

↓

介護経験のない少ない職員等については、PT や看・介護職員が、個別で介護技術・ボディメカニクスの指導を行うなどで対応した。

4. 地域貢献

- (1) 地域社会への支援

- ① 町や小地域ごとの介護予防事業等への継続的な参加を行います。(地域包括ケアシステムとの関わり)

↓

毎月1回の活動と年4~5回の活動要請があり対応できた。

- ② 須恵町地域連携の会・地域ケア会議への参加を行います。

↓

2ヵ月に1回上須恵あそぼう会の要請があり参加できた。

- ③ 地域ミニデイサービス及び地域防災訓練に参加し、地域とのつながりを大切にします。

↓

できる限りで対応してきた。

- ④ 福岡レスキュー事業への理解を深め、活動します。

↓

できるだけ参加するなど対応してきた。

利用者状況

①入退所状況

※短期入所療養介護利用者含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長期・入所者数	2	5	4	5	3	3	2	0	1	4	1	2	32
短期・入所者数	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
長期・退所者数	5	2	1	4	3	2	2	3	3	8	1	3	37
短期・退所者数	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
月末在籍者数	80	83	86	87	87	88	88	85	83	79	79	78	
述べ利用者数	2421	2560	2580	2605	2696	2624	2711	2591	2596	2511	2303	2425	30623
稼働率	80.7	82.6	86.0	84.0	87.0	87.5	87.5	86.4	83.7	81.0	79.4	78.2	83.7

②月別要介護度

※短期入所療養介護利用者を除く

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	18	17	16	16	11	11	10	9	9	8	7	8
要介護2	16	15	14	15	17	15	17	17	16	18	19	18
要介護3	17	19	20	20	20	22	20	20	19	16	14	14
要介護4	14	15	17	17	19	18	18	18	18	17	19	19
要介護5	15	17	19	19	20	22	23	21	21	20	20	19
合計	80	83	86	87	87	88	88	85	83	79	79	78
平均要介護度	2.90	3.00	3.10	3.09	3.23	3.28	3.31	3.29	3.31	3.29	3.33	3.29

③年齢

令和6年3月31日

	男性	女性	全体
最高年齢	98歳	101歳	101歳
最低年齢	66歳	66歳	66歳
平均年齢	85.1歳	88.0歳	87.5歳

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	1	2	1	3	3	3	2	0	2	2	0	1	20
座り込み、落床	3	2	3	4	1	3	2	2	1	0	0	0	21
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
異食等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
皮膚のトラブル	1	3	2	1	1	0	0	1	0	1	1	0	11
配薬関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
合計	5	8	6	8	5	6	5	4	3	3	2	1	56

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

利用者通院状況(訪問歯科・往診を含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	2	2	1	2	3	1	0	0	2	1	0	2	16
外科	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	1	6
整形外科	3	4	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	12
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	2	2	2	1	2	0	0	0	2	0	1	0	12
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
皮膚科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦人科	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
泌尿器科	2	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	7
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	9	8	6	4	8	1	3	2	5	4	4	5	59

利用者リハビリ実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別訓練(述べ)	604	681	530	476	597	668	687	648	602	530	621	625	7,269
集団体操	1,198	1,336	1,146	938	1,176	1,124	1,147	1,233	1,181	1,164	920	947	13,510
レクリエーション	131	290	132	48	100	184	315	250	212	122	192	259	2,235
合計	1,933	2,307	1,808	1,462	1,873	1,976	2,149	2,131	1,995	1,816	1,733	1,831	23,014

行事实施状況

月	日	行 事	対象階
4	4	喫茶会	4階
	13	ミニおでかけ	2階
	16	茶話会	全階
5	21	茶話会	全階
	25	ミニドライブ	4階
	26	ミニおでかけ	3階
	30	バラ見物	3階
6	5	喫茶会	4階
	8	室内運動会	3階
	15	ミニおでかけ	3階
	18	茶話会	全階
	22	大喫茶会	2階
7	13	夏祭り	2階
	16	茶話会	全階
	19	ミニおでかけ	3階
	20	夏祭り	3階
	27	夏祭り	4階
8	7	喫茶会	4階
	20	茶話会	全階
	25	大映画祭	3階
	28	ミニおでかけ	3階
9	14	ミニおでかけ	3階
	17	茶話会	全階
	18	寿老の集い	全階
10	3, 24	ミニお出かけ	2階
	12	ミニお出かけ	3階
	15	茶話会	全階
	23	ミニドライブ	4階
	26	大喫茶会	2階
11	6	菊花展見物	4階
	9, 16	菊花展見物	3階
	13	喫茶会	4階
	19	茶話会	全階
12	14	利用者忘年会	3階、4階
	17	茶話会	全階
	21	利用者忘年会	2階
	28	もちつき	全階

行事実施状況

月	日	行 事	対象階
1	1	新年祝賀式	全階
	11	鏡開き	全階
	18	喫茶会	4階
	19	初詣	2階
	21	茶話会	全階
	22	初詣	4階
2	1	節分	全階
	5	喫茶会	4階
	18	茶話会	全階
	22	大喫茶会	2階
	26	七福会	3階
3	3	ひな祭り(行事食)	全階
	4	喫茶会	4階
	13, 19	ミニお出かけ	4階
	17	茶話会	全階

※誕生会は、ご利用者の誕生日に随時実施した。

※今年度も新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながらの外出行事となった。

また、施設内行事についても、感染対策を講じながら実施した。

施設内研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R5.4.25	緊急時の対応・事故防止	全職種	25
R5.8.23	コンプライアンス・個人情報保護/ハラスメント研修	全職種	36
R5.11.21	認知症ケア	全職種	21
R5.12.14	メンタルヘルスケア	全職種	26
R6.1.30	感染症・食中毒予防	全職種	14
R6.2.27	身体拘束廃止	全職種	24
R6.3.26	虐待防止	全職種	24
	《資料配布》		
	・5月予定…適切な接遇		
	・6月予定感染症・食中毒予防		
	・7月予定…リスクマネジメント・事故防止(KY活動)		
	・9月予定…虐待防止		
	・10月予定…リスク管理と身体拘束廃止		

施設外研修参加状況

開催年月日	研修名	主催者	参加職種	人数
R5.11.13	須恵町地域連携の会	須恵町地域包括支援センター	理学療法士	1
R5.12.9~12.11	社会福祉法人経営者研修会~人事管理コース~	全国社会福祉協議会・中央福祉学院	事務員	1
R6.1.15	須恵町地域連携の会	須恵町地域包括支援センター	理学療法士	1
R6.2.3	令和5年度介護予防防事業従事者研修会	福岡県保健医療介護部	理学療法士	1
R6.2.9	須恵町地域ケア会議	須恵町地域包括支援センター	理学療法士	1
R6.3.2	令和5年度福岡県介護予防支援センター~四地区研修会	福岡県保健医療介護部	理学療法士	1
R6.3.11	須恵町地域連携の会	須恵町地域包括支援センター	理学療法士	1

ボランティア来所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(回)
個人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サークル指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	6
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	6

実習受け入れ状況

期 間	学 校 名	人 数
R5.11.6	介護労働安定センター実習	1名

令和5年度 特別養護老人ホームなの国 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- ① 入・退居における円滑な調整を行い、年間を通して稼働率(77名)を保持します。

↓

入院者がと逝去者が過去最高に多く年間稼働率の平均が76.6名と目標値を下回った。

- ② 在宅部署や地域・在宅サービス提供機関、及び医療機関との情報交換や交流の場に積極的に赴き、新規入居者の確保に繋がります。

↓

提携医療機関との連携は密に図り、早期に退院できる様働きかけた。他事業所との交流は感染症流行もあり、機会がなかった。

- ③ 入居希望者、依頼者との面談の中で希望する生活のニーズを把握し、必要に応じて在宅サービス等、他部署利用へ繋がります。

↓

早期対応が必要な方については、なの国の在宅サービスや法人内他施設の情報提供を行い、法人単位での利用者獲得を念頭に置き、対応した。

- ④ 医療機関等からの依頼に対し、施設サービス利用を含め柔軟に対応します。

↓

嘱託医院に限らず、医療機関からの依頼に際しては柔軟に対応し、2名の入居に至った。

- ⑤ 入居者の身体状況、生活環境の変化に伴うリスクマネジメントをユニットスタッフと共に行います。また、PDCAサイクルを回し、事故の検証、再発予防策の実施、効果測定及び振り返りを行い、事故の未然防止や類似事故の発生防止に努めます。

↓

委員会活動やユニット職員との対話を通じて、効果測定まで行ったが類似事故や、期間をおいて発生した事故等があり、介護事故に対するアプローチが不十分であった。

- ⑥ 法人ブログを通じて情報発信を行い、魅力ある施設をアピールし入所者の確保に繋がります。

↓

サークル活動の様子を、インスタグラムを通じて発信し、施設の魅力を伝えた。

- ⑦ 行事やイベント、サークル活動などをインスタグラムにて情報発信を行います。

↓

インスタグラムにて、施設内のイベントやサークル活動、行事食の投稿を行い、情報発信に努めました。

- ⑧ ご入居者一人一人の状態を的確に把握し、多職種連携にて異常の早期発見、必要時は臨時のサービス担当者会議を行い入院等回避することで安定した利用率につなげます。

↓

日頃よりご入居者の状態把握を行い、多職種連携にてそれぞれが専門性を発揮し異常の早期発見に努めた。

2. 高品質なサービスの提供

- ① 生活の継続に重点を置いた面接やアセスメントを行い、“できること”を重視した入居の受け入れを行います。

↓

入居者本人に“できること”を聞く等、重点的にアセスメントを実施したが、入居後の実行率は低い様になる。

- ② 入居者の個性や心身の状況に応じた生活の快適性・利便性・安全性を追求し、ユニットごとのケアの推進を行います。

↓

入居者の状況変化に応じた環境設定を、他職種と協働し実施した。

- ③ 日々の情報収集を関係職種間で密に行い、速やかな課題の発見・解決にあたる。カンファレンスを通して職種間の連携を強化し、共通理解を基礎としたチームケアを推進します。

↓

日頃の情報収集や本人、家族の言動から共有を図り、職種間で意思疎通を図った。浸透度、理解度はユニット毎に差が生じており、フォローする必要性を実感した。

- ④ 会議や委員会活動における職員間の合意形成・連携を強化し、利用者満足・サービスの質の向上を図ります。

↓

会議及び委員会において、入居者の生活を念頭に置いた発言を心掛けた。

- ⑤ 入居者の安全対策(事故、感染症、災害時等)及び緊急時対応の構築を図る。特に感染症対応に於けるマニュアルの随時更新・定期的なシミュレーションを実施し、入居者と職員が安心できる環境を作ります。

↓

感染症対応においてマニュアルを作成し、状況に応じ適宜更新を行った。また感染症発生時に於いては、当該ユニットスタッフの他、他職種とスムーズな連携を図る事ができた。

- ⑥ 受け付けた苦情の原因を究明し、職種間で連携を取りながら、総合的なサービスの質の向上を図ります。

↓

苦情に対して、具体的な解決策を検討・実行に移しサービスの質の向上を図った。

令和5年度の苦情受付体制での苦情件数は1件であった。苦情受付体制以外での要望等は3件であった。

- ⑦ 感染症対応に於いても、入居者の生活の質を担保し、サークル活動や施設内行事により多くの入居者が参加できるよう、他職種と協力を図ります。

↓

感染症に留意しつつ、サークル活動への参加を促した。また、介護職員等と連携し、活動を維持できるよう努めた。

- ⑧ 感染症対策により面会や外出等様々なことが制限される中、ご入居者・ご家族の不安をできるだけ解消するべく双方に積極的に関わります。また日頃からご入居者の情報収集に努め正確な情報をご家族に伝えることで安心感につなげます。

↓

できるだけご入居者に関わる機会を持つよう努めたがラウンドする時間はもう少し増やしていきたい。また、毎月のケアプラン変更時にはご家族へ連絡を取りご本人のご様子を伝えご意向等の聞き取りも行った。

- ⑨ 感染予防として 1 日に対応する階を限定し、緊急時以外は複数階をまたいだ直接的訓練を避けます。

↓

1 日に対応する階を限定したため、機能訓練指導員が介入する日を1ヵ月ごとにスケジュール管理し、スケジュール表は各階に配布・掲示している。

- ⑩ 行事食は、季節の食材を取り入れた献立作成、お品書きやランチョンマットを作成し季節感を感じられる演出を行います。

↓

季節の食材の提供とともに、お品書きや料理説明書などにも季節を感じられる様なイラストや説明書きを添えて演出を行いました。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ① 役割を明確にする事で業務負担を減らし、残業時間の短縮を図ります。

↓

役割分担を明確にしたことで、残業時間の短縮を実現することができた。

- ② 有給休暇を取得できる環境を作り、ライフワークバランスの充実を図ります。

↓

有給管理台帳を基に各職員の有給残数や、年間取得日数について説明を行い、定期的に有給休暇を組み込み、取得を図った。

- ③ 職員間で定期的な情報共有機会を設け、“見える化”を進め、協力体制を築きます。

↓

共有を図る場を設けたが、業務分担や共有には不十分であった。

- ④ 感染症対策を行いつつ、必要な職員研修を企画、実施する事で施設全体のサービスの質の向上を図ります。

↓

毎月の内部研修の他、救命救急や介護技術、ユニットケア等の必要な研修を随時取り入れた。

- ⑤ 新人スタッフへのオリエンテーション(認知症について、介護技術、ユニットケアについて等)
↓
オリエンテーションは行えているが、認知症について等はできないこともある
介護技術は、ノーリフティングケアを取り入れながら指導を行っている
ユニットケアに関しては、ユニット推進委員メンバーを中心に研修を行っている
- ⑥ 新人スタッフへの配布資料を全フロア統一し、スムーズに業務に取り組めるようなシステム作りに努めます。
↓
昨年は一部できていないところもあったが、フロアごとの配布資料を見直し、新しいシステムをつくりあげることができた。

4. 地域貢献

- ① 地域に開かれた施設を目指し、入居者が地域と繋がる機会を作ります。
↓
河川清掃、壱岐校区文化祭、公園清掃や花壇管理を通じ、入居者が地域と繋がるきっかけをつくる様、努めた。
- ② 地域ケアを考える会の活動、ライフレスキュー事業、校区内の社会資源を活用し、地域課題への継続支援を図ると共に、各関係機関との連携を継続します。地域福祉との共生、充実の為に地域事業所等との連携・協働を図ります。
↓
新型コロナウイルスの影響があって、地域の動きがストップしていたが、考える会の活動は徐々に復活ができています。壱岐校区行方不明捜索訓練も再開し、認知症講座も含めて参加できました。ライフレスキュー事業においては、相談はあるものの、直接的な活動へつながる案件は発生していない。

利用者状況

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	3	3	2	0	2	2	2	3	5	2	4	4	32
退居者数	1	2	1	1	1	2	4	3	5	4	1	2	27
月末在籍者数	78	79	80	76	77	77	75	75	75	73	76	78	919
月末在所者数	74	78	77	74	75	72	70	69	69	70	75	77	880
延べ利用人数	2,242	2,321	2,303	2,326	2,366	2,223	2,224	2,119	2,166	2,152	2,094	2,361	26,897
稼働率	96%	98%	95%	93%	98%	96%	95%	95%	94%	92%	93%	95%	95%

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	5	6	6	6	7	7	6	5	5	5	6	6	70
要介護2	7	7	9	9	9	9	9	9	8	8	8	9	101
要介護3	22	22	20	19	18	19	19	19	22	22	24	25	251
要介護4	30	30	30	29	30	30	26	25	25	24	25	26	330
要介護5	14	14	15	13	13	12	15	17	15	14	13	12	167
合計	78	79	80	76	77	77	75	75	75	73	76	78	919
平均要介護度	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	0	3	8	6	2	0	2	0	1	1	1	3	27
座り込み、落床	2	1	1	2	1	2	0	0	0	1	0	1	11
配薬関係	0	2	2	2	2	0	0	0	1	1	0	2	12
皮膚トラブル	0	4	1	1	1	4	0	0	0	0	0	0	11
離設	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
異食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	0	4	1	0	3	2	2	0	1	15
合計	2	11	13	11	10	9	2	3	4	5	1	7	78

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

令和5年度 年間実績表

月	施設行事	地域行事・他
4月	外出行事(ピクニック)	壱岐校区河川清掃
5月	バーベキュー	
6月	おやつバイキング	
7月	ソーメン流し・お茶会	
8月	居酒屋	
9月	敬老祝賀会	
10月	なの国 文化祭	校区文化祭
11月	なの国 文化祭	壱岐校区河川清掃
12月	クリスマス会 ユニット忘年会	
1月	新年祝賀会	
2月	節分	
3月	お花見	
その他月間予定・週間予定		
<ul style="list-style-type: none"> ● サークル活動……………月1回作品作り ● パン販売……………毎月1回 ● お刺身……………毎週1回(希望者のみ) 		

ボランティア来所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サークル指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体の	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実習受け入れ状況

期間	学 校 名	人 数
R5 8/14~8/18	筑紫女学院大学 教育学部	1
R5 11/2	介護労働安定センター	1
R6 2/5~2/17	西九州大学健康福祉学部 社会福祉学科 介護福祉コース	1

研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R5 4/20	各部署事業計画について	全職種	19名
R5 5/18	食中毒の予防と対策、救急対応研修	全職種	16名
R5 6/15	身体拘束、高齢者虐待防止について	全職種	20名
R5 7/25	リスクマネジメント	全職種	19名
R5 8/23	コンプライアンス・プライバシー保護・個人情報保護について	全職種	27名
R5 9/21	ターミナルケアについて	全職種	17名
R5 10/19	感染・褥瘡症予防と対策について	全職種	24名
R5 11/16	認知症の理解	全職種	21名
R5 12/14	メンタルヘルスについて	全職種	30名
R5 1/18	身体拘束・苦情について	全職種	21名
R5 2/15	介護技術講習 ノーリフティング	全職種	18名
R5 3/21	防犯・防災について	全職種	18名

令和5年度 ショートステイなのに 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1、利用率の向上

- ①新規利用者受け入れの際は迅速に対応し、利用者・家族が安心して利用して頂けるような関わりを持ち、再利用や定期利用に繋がります。月ベッド平均稼働率 17 以上を継続します。

↓

新規利用者の受け入れについては可能な限り対応を行っている。利用前の担当者会議・契約時には身体状況・生活状況を細かく聞き取りを行い、安心してご利用いただけるように取り組んでいる。稼働率においては、月平均 17 人目標値に対し、月平均 16.1 人にて推移。令和 4 年度比 ±0% で推移している。また、目標値に対し、94.0% の稼働状況であった。

昨年度と比較すると、大きな変動は見られなかった。しかし、コロナ感染症により利用を控える意向があったことや罹患後の体調不良・逝去等での利用終了者も多く、規定が緩和された現在も新型コロナウイルス感染状況の影響を受けている。また、医療ニーズの高い新規相談者が多く、医療体制が整っていない為、受け入れを断わざるを得ない場面も多くあった。

- ②緊急的な利用の受け入れ・利用の追加(延長)・時間外送迎等、可能な限り、利用者・家族の希望・要望に応じた柔軟なサービス提供に努めます。

↓

可能な限りの対応を行った。ご家族の体調不良等による緊急の受け入れについては新型コロナウイルスの影響からお断りする場面があった。

緊急受け入れの相談があり、居室の空きがない際には特養相談員へ相談し、特養居室の空所利用にてご案内を行った。転倒により在宅生活が困難になった方の緊急受け入れを行い、強い希望にて長期での案内を行うケースがあった。

- ③定期的に担当ケアマネジャーへ情報提供を行い、連携を図ります。

↓

利用中の状況については、月末にサービス状況報告書を担当ケアマネジャーに送付し、共有を図っている。また、利用中に状況の変化が見られた時や、ご家族からの相談・要望等については担当ケアマネジャーに連絡し、情報共有・報告を行っている。

- ④長期(特養・老健)入所や入所待機者も視野に入れた利用の受け入れ・事業紹介を行います。

↓

入所を見据え、施設になれる為にショートステイを利用される方や短期利用中で特養申し込み希望がある方に対してのサービス説明や併設する他事業所の紹介を行い、申込される方もいた。特養の希望があり、すぐのご案内が難しい方に対しては特養相談員と共有し、入所待機者を長期利用で受け入れた。(現在入所待機者で長期利用中の方 7 名)

- ⑤ケア内容の変更点や追加点が明確且つ、周知徹底が図れる様、情報共有の工夫を行う。

↓

自宅から引き続き様子観察や処置が必要な事項については口頭、文章等で関係職種への情報交換を行った。また、随時記録に残し、以降の利用時にも適切なケアが提供できるようにした。結果に

についてはご家族、ケアマネジャーへの報告を行った。

2、高品質なサービスの提供

①コロナ禍におけるサービス提供

バイタルチェックや自宅での状況等、常に状態を把握。普段と様子が違う際は家族やケアマネジャーへ相談・報告を行い、有事の際は各機関と連携し迅速に対応します。

利用者、ご家族とのコミュニケーションを密に図り、信頼関係の構築、維持を図ります。併せて課題解決のアプローチを継続して実施します。

↓

コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後も毎利用時には自宅や他サービス利用時の様子や体調確認等を行い、注意を払いながら受け入れを行った。1名体調不良により退所後コロナ罹患が判明し、他利用者1名、送迎職員1名罹患したが、発熱前に普段と様子が違い、発熱前にご家族相談、希望あり退所が決まっていた為、昨年と比較し、ユニット内で大きく広がることなく経過した。

②令和6年4月における介護保険改正に向けた取り組み

新たなサービスの誕生と再編、たび重なる利用者負担の増加、地域支援事業への移行等、サービス控えや、他サービスへの移行が容易に考えられる。選ばれる事業所となり続ける為に、アクティビティーの充実など、利用者満足度向上への取り組みにまい進します。計画的、継続的な実施が行える様、ユニットスタッフと連携・協働を強化します。

↓

利用目的として、介護者の介護負担軽減、予定に合わせた利用が主であるが、他者との交流、認知症予防、気分転換等、生活の質を向上させるためにアクティビティー面の要望が多くあった。短期利用の為、活動を希望されている利用者が行事開催日に利用がなく案内できない為、事前に行事開催予定日をお話し、希望があれば利用日を変更したり、ドライブや買い物支援等を数回であるが多くの利用者をご案内することができた。ご家族・ケアマネジャーからも喜びの声が聞かれた。しかし、職員数が少なく計画的・継続的に行うことは難しい為、他方法についても考えていく必要がある。

③長期利用者の是正が始まる可能性が高い状態。可能な限り在宅生活との両輪で支援を続けられるよう、機能維持の為のケアを取り入れ、関係職種間で連携を図り、『在宅生活を支える』という本来の趣旨が発揮できるよう、対処します。

↓

長期利用者に関しても体調変化や本人の希望等必要時にはご家族・ケアマネジャーと連絡を取り合いながら情報共有・支援を行うことができた。また、コロナウイルス感染症に対する緩和により、面会制限の緩和、外出・外泊が可能、より家族と過ごす時間が増えたことに伴い、ご家族からの要望や希望も増え、在宅生活に近い支援を行うことができた。また、外出の調整等も行うことができた。

④アウトカム評価にも対応できるよう、自立支援・重度化予防の観点にも着目し、職員の基礎的知識、技術の底上げを図っていきます。

↓

職員が自主的に知識の習得に努めることができた。また、自立支援・重度化予防について専門的な部分に関しては他職種と相談しながらそれぞれの利用者に応じた支援を考え、職員間で共有することで職員全体での知識・技術の向上につなげることができた。

3、働きやすい職場づくり・人材育成

- ①ショートステイ会議等に参加し、情報共有・意思統一を維持しつつ、チーム力向上に努めます。人材定着の継続を図ります。

↓

可能な限りユニット会議へ参加し、利用者の状態やより良い支援を行うための情報を共有、必要な時にはご家族やケアマネージャーに連絡し、日々利用者の様子を見るユニットの見解を伝達しながら、ユニットに対してもご家族・ケアマネージャーとのやり取りを伝え、チームとしてケアについて考えていくことができた。

- ②外部研修等の機会を持てるよう努めます。

↓

送迎や担会、契約との時間調整が難しく、外部研修へは1回のみ参加となった。知識習得の為に、もた職員と相談・時間調整等を行い、外部研修に参加できる機会が設けられるようにしていきたい。

4、地域貢献

- ① 地域ケアを考える会の活動、ライフレスキュー事業、校区内の社会資源を活用し、地域課題への継続支援を図ると共に、各関係機関との連携を継続します。地域福祉との共生、充実の為に地域事業所等との連携・協働を図ります。

↓

担当者交代の為、地域を考える会、ライフレスキュー事業への参加機会はなかった。地域貢献のための活動は積極的には行うことができていないが、清掃活動等の開催時には参加を行い、地域と関わる機会があった。コロナウイルス感染症が緩和され、今後施設も少しずつ緩和されていくことで、地域にある福祉施設として積極的に地域貢献を行っていきたい。

事業所名 ショートステイなのくに

【短期入所生活介護】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		
	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)
要介護1	6	33	6	47	5	29	3	15	5	27	8	43	7	53	9	52	4	19	6	25	5	28	7	35	71	406	
要介護2	7	68	8	83	8	76	9	80	10	87	8	81	9	76	8	84	12	106	12	118	9	84	11	118	111	1061	
要介護3	13	198	12	237	13	258	10	216	13	216	15	201	10	197	12	221	14	207	12	198	13	209	12	172	149	2530	
要介護4	4	74	4	44	3	41	4	73	2	50	4	66	3	95	5	97	4	93	3	96	5	143	5	139	46	1011	
要介護5	4	56	4	62	7	59	4	62	5	74	5	94	7	95	5	87	4	88	4	74	3	56	4	90	56	897	
小計②	34	429	34	473	36	463	30	446	35	454	40	485	36	516	39	541	38	513	37	511	35	520	39	554	433	5905	
平均要介護度	3		2.70		2.90		2.9		2.70		2.7		3.1		2.6		2.8		2.6		2.8		2.8	3		2.80	
1日平均利用者数(人)	14.3		15.3		15.4		14.3		14.6		16.1		16.6		18.0		16.5		16.5		17.9		17.8		16.1		

【介護予防短期入所・短期入所合計】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		
	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)
合計	34	429	34	473	36	463	31	448	35	454	41	487	37	521	40	543	38	513	37	511	35	520	40	557	438	5919	
1日平均利用者数(人)	14.3		15.3		15.4		14.5		14.6		16.2		16.8		18.1		16.5		16.5		17.9		17.2		16.2		
ベッド稼働率(%)	71.0%		76.3%		77.2%		72.3%		73.2%		81.2%		84.0%		90.5%		82.7%		82.4%		89.7%		89.8%		80.8%		
特記事項																											

令和5年度 デイサービスセンターなのくに 事業報告

I 事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

II 施設目標

- 1 サービスの質の向上、改善に努める
- 2 新規利用者を増やしていく
- 3 感染症防止に努める

III 具体的計画

1. 利用率の向上

- (1)各居宅支援事業所、近隣の福祉サービス等を訪問し、新規利用者を獲得する為の広報・営業を行います。その際、月の状況報告書と月間行事予定表も一緒に配布します。

↓

コロナウイルスも5類に移行されたが、感染予防を徹底し感染予防を徹底し見学や体験利用積極的に受け入れた。結果、家族・ケアマネージャーにも、事業所の意向が伝わり、新規相談の件数も増やすことへ繋がった。

- (2)職員が一体となって利用者に満足して頂けるサービスを一貫して行えるよう努めます。

↓

体験利用時は、事前に可能な限りの情報をケアマネージャー・ご本人・家族からの情報提供をお願いし、ニーズの把握に基づいてサービスを提供できるよう努めた。また、家族との会話の中で介護負担をなどを感じた時は、ケアマネージャーへ相談し、利用時間や回数などのサービスの見直しの提案を行った。

- (3)特色あるデイサービスの運営を目指し、他事業所との差別化をはかります。利用者個々に目を配り、キメ細かいケアを実施することで、利用者の自立支援を促進できるよう努めます。

↓

毎月外出行事を行い、外出の場を増やすことによって ADL の向上にも努めた。又、買い物行事などでも、ご本人様に考えていただくなど、認知機能の低下予防にも努めた。

毎月の創作活動は、ご利用者の意見なども反映させ少し手の込んだ作品作りを行った。手先を使うことで、普段動かされない方も集中して取り組まれており、完成した時の達成感もあるようで好評であった。

- (4)在宅高齢者とその家族のニーズを把握し、利用時間等の柔軟な対応を行うことで、利用されるご本人・家族の思いを活かしたサービス提供の促進を図っていきます。

↓

ご本人の希望に沿った短時間利用の受け入れ、行事参加や病院受診等での振替利用、ご家族の介護負担を考慮しての追加利用の受け入れを行うなどして柔軟に対応を行った。

(5) デイサービスセンターは、ヘルパーステーション・ショートステイの在宅サービス・施設サービスが同じ敷地内に立っており、一連の流れでご利用していただくことができる為、連携強化を図り、法人全体の収益が上がるように努めます。

↓

ヘルパーステーション、ショートステイと併用で利用されているご利用者も通われている。自宅、ショートステイ、デイサービスセンターそれぞれの様子を情報共有することでそれぞれのサービスを点ではなく線として捉えることができ、サービスをより充実させることができた。

(6) 2S(整理・整頓)の徹底で業務の効率化を図ります。

↓

新しく内装の家具等の配置を変えたことで、在庫の把握もしやすくなり、探すこともほとんどなく業務に支障をきたさないようになっている。又、月に2~3回フロア整理や書類整理日を設け、職員の片づけに対する意識も継続している。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 職員の健康状態の確認、規定時間毎の消毒・換気を行いながら密集密接にならないようにサービス提供を行います。

↓

職員間での体調確認実施、少しでも体調不良を感じたら、場合によっては抗原検査等の実施も行い、感染拡大の予防に努めた。

(2) 在宅部門で、定期的に感染症マニュアルの見直しを実施します。基本的な感染予防対策を継続し、安心して利用できる拠り所として機能できるよう努めていきます。

↓

在宅部門でも感染委員会を実施し、各部署での感染マニュアルの見直しを行い、各部署での感染時の動線確認等に努めた。

(3) ケアプランに基づいた通所計画書を作成し、一定期間の評価を行い、自立支援に向けたサービス提供を行います。

↓

計画書の内容を精査し、ケアマネージャーや他事業所からの意見・情報により変更し、より質の高い物を作成できた。作成する人数を増やし、事業所内での分担を行った。

(4) 介護保険改正の情報を常に受信し、加算等の取得ができる人員確保を整備していきます。

↓

新たな加算が取得できるよう、有資格者の人員確保に努めた。

(5) 利用者ごとのADL値、栄養状態、口腔機能、認知症の状況その他の利用者の心身の状況等に係る基本的な情報を、LIFEを用いて厚生労働省に提出を行います。

↓

毎月体重測定等も行い、常にLIFEの更新を行い、提出に努めた。

(6) 事業所内で提供サービスの振り返りを行い、チームでのサービス提供に反映し、必要に応じて業務の改善を行います。

↓
毎日、朝礼・終礼を行いご利用者の情報共有に努めた。又、月に1度はデイ会議を行い、より詳しい情報共有を行い、業務改善に努めた。

(7)個人を大切に質の高い接遇(特に言葉使い)ができるよう、研修参加・日々のケアの向上・信頼関係の構築に努めます。

↓
外部研修・内部研修に積極的に参加し情報収集に努め、その情報を基に、再度デイにて研修を行い、より良いサービス向上に努めた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1) 話しかけやすい、相談しやすい雰囲気作りの確立を目指します。

↓
今年度は、職員間の連携も取れ、お互いに助け合うことにも心掛け、働きやすい環境ができた。

(2) 専門性向上の為の研修参加への協力体制を確立します。

↓
資格習得希望者には勤務希望・変更を柔軟にし、他職員への理解と協力を得ることができて専門性の向上に努めることができた。

(3) 有給を取得しやすい環境・協力体制の確立を行います。

↓
家庭の事情に関しては、できる限り有給を活用することで安心して休める協力体制を作ることができた。その他の希望についても順番に有給を取れるよう考慮することができた。コロナ感染・濃厚接触者の出勤停止での有給がなくなった場合は、労災申請を行ってもらった。

(4)職員の声に耳を傾け、業務内容の改善を図り、健康面の配慮も行っていきます。

↓
人員配置の偏りがないよう勤務表作成に努めた。体調不良時は、負担の少ない業務指示や早退など不安なく働ける環境を作り努めた。

4. 地域貢献

(1)地域での行事やボランティア活動に参加、近隣住民との連携・情報交換に努めます。

↓
地域の川清掃にも参加し、地域貢献に努めた。

(2)利用者とはざー作品を作り、地域文化祭で販売を行います。

↓
地域の文化祭にも参加し、作品販売を行った。

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護	39	37	37	36	38	39	40	40	40	38	39	36	42.6
予防	8	7	9	9	10	9	9	8	7	7	8	7	10.5
総合計	47	44	46	45	48	48	49	48	47	45	47	43	53.1
1日平均人数	18.2	17.8	17.8	17.5	17.8	18.6	18.2	18.2	16.8	15.8	17.5	16.2	17.5
利用者実績(月)	454	481	465	456	481	485	475	472	438	429	438	423	479.9

通所介護

要介護度別人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	19	17	16	17	16	16	17	17	17	19	19	19	209
要介護2	8	7	8	8	10	11	12	12	12	10	11	9	118
要介護3	5	6	7	6	7	7	7	7	7	6	6	5	76
要介護4	5	5	4	4	4	4	2	2	2	1	1	1	35
要介護5	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	21
合計	39	37	37	36	38	39	40	40	40	38	39	36	4284
平均要介護度	2.0	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2.0	2.1

予防通所介護

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	5	4	6	5	6	5	5	5	4	3	4	3	55
要支援2	3	3	3	4	4	4	4	3	3	4	4	4	43
合計	8	7	9	9	10	9	9	8	7	7	8	7	396

新規・中止者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	2	1	2	2	2	1	4	1	1	2	0	1	19
中止者	2	1	1	1	0	1	0	3	3	0	2	3	17

事故・苦情報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苦情	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	5

令和5年度 年間行事表

月	施 設 行 事	工作レクリエーション
4月	お花見 屋外散歩 デザート外出	春の工作
5月	端午の節句 藤の花見学 二見ヶ浦へドライブ	アロマストーン
6月	夏野菜の畑作り 買い物ツアー 七夕に向けて準備 紫陽花見学	七夕作品
7月	七夕会 飾り山見学 野菜収穫 ひまわり畑見学	レジストラップ
8月	納涼会 野菜収穫 デザート外出	フォトフレーム
9月	敬老会 コスモドライブ 昼食外出 屋外散歩 なのくにデイ運動会	文化祭提出作品
10月	コスモス畑見学 春花の畑作り・種まき	文化祭提出作品
11月	文化祭 焼き餅ツアー(愛宕神社) 紅葉狩りドライブ 芋掘り	クリスマス作品
12月	クリスマス会 忘年会	干支飾り
1月	初詣 書初め 買い物ツアー	節分工作
2月	節分 豆まき バレンタインデーおやつ作り(チョコレートケーキ) 昼食外出	ひな人形
3月	おひな祭り デザート外出	フェルトの花

令和5年度 ヘルパーステーションなのくに事業報告

I 事業目標

「経営の充実と安定した運営に取り組む」

II 事業所目標

利用者の心身の状況やニーズ、その置かれている環境等を把握し、その人らしい生活が営めるよう努め、利用者とその家族が安心でき地域に根ざした事業所を目指します。

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスを提供するよう努めます。

↓

利用者の立場に立ってサービスを提供するよう努めた。また、利用者・家族の声に耳を傾け、信頼や満足いただけるよう日々の業務改善にも努めた。

(2) 法令順守を徹底した事業運営と居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターとのスムーズかつ密な連携(営業活動)を行い、職員が一体となって稼働率向上への取り組みの工夫を行います。

↓

ミニカンファレンスを定期的実施し、法令遵守の徹底に努め、居宅支援事業所等との信頼関係の構築に努めた。日頃からスケジュールの空き状況を確認し、居宅支援事業所等との連携時に提示を行い新規獲得に繋げた。

(3) 安全かつ快適なサービスを提供するために、職員間等の報告・連絡・相談の徹底を図ります。計画に変更が生じた際は、利用者のニーズに基づいた訪問介護計画の再検討を行っていきます。

↓

利用者の心身の状態や生活・家族の状況の変化が生じた場合、申し送りや記録、指示書にて、報告・連絡・相談の徹底を図った。必要時、担当ケアマネージャーに報告し計画内容の再検討を行い見直し・サービス追加に繋げた。

(4) ヘルパーステーションは、デイサービス・ショートステイの在宅サービス・施設サービスが同じ敷地内に立っており、一連の流れでご利用していただくことができる。その為、連携強化を図り、法人全体の収益が上がるように努めます。

↓

サービス提供中、利用者やご家族に対して、必要に応じて併設の各事業所の紹介を行い認知度の向上に努めた。

2. 高品質なサービスの提供

(1) コロナ禍におけるサービス提供

・安心してサービスを受けていただけるよう感染防止対策を取りながら、計画に沿って利用者と共に家事活動や身体介護を行います。

↓

抗原検査の実施、マスク、手袋着用し計画通りサービス提供できた。感染状況によっては、フェースシールドや防護服を着用しサービスを行い安心してサービスを受けて頂いた。

・訪問介護員が感染の媒体者とならないよう、訪問前の感染対策を毎回チェックします。
↓
毎日の体調管理と定期的な抗原検査を実施し、次のサービスへの移動時は消毒を実施。

・利用者が外出を控え孤立しないように、各居宅支援事業所及び地域包括支援センターに情報の共有を図ります。
↓
コロナ禍の影響で外出が少なくなったことはあるが、孤立するということはない。

(2) 感染対策

・訪問介護員等個々が体調の自己管理を行い、出勤時には健康チェックを実施します。
↓
訪問介護員等は日々体調の自己管理を行い、定期的に抗原検査実施。サービス時には、マスクと手袋着用を必須としサービス提供。

・利用者の日々の健康管理、住環境に十分配慮します。
↓
定期訪問時に心身等の健康観察を行い、事業所内の情報の共有に努め、体調不良時には迅速に対応を行った。同時に住環境にも配慮ができた。

・定期的及び感染症流行時期に会議や研修を実施し、感染予防やまん延防止に努めます。
在宅部門での感染対策の連携も行います。
↓
「感染しない・感染させない」を常に念頭に置き全訪問介護員等と情報の共有を図った。
また、在宅部門との連携も図り感染予防やまん延防止に努めた。

(3) 業務継続に向けた取り組み

・感染症や災害発生時、現状に沿ったBCPを策定し、安全、安心な訪問介護サービスを継続的に提供します。
↓
BCP計画策定は作成中。安全、安心な訪問介護サービスが継続できるよう取り組みます。

・BCPの研修やシミュレーションを定期的実施し、職員間に共有するとともに不測の事態に備えます。
↓
BCP研修に参加。不参加者については資料配布し情報の共有を図った。

・災害時に的確な判断で迅速な行動がとれるよう統一した認識と防災意識を深めます。
↓
災害時、緊急時の対応研修は、毎年1回実施。今後も継続し防災意識を深めていきます。

(4) 高齢者虐待防止

・利用者へのサービス提供とともに家族との関わりも持ち、生活状況の把握に努めます。
↓
複数の訪問介護員等で定期サービスに入り、その複数の視点で利用者及び家族との関わり

を持ち生活状況の把握に努め、異常はなかった。

・サービス提供の中で信頼関係の構築に努め、相談しやすい関係作りを目指します。

↓

利用者が望む生活が継続できるよう寄り添い、困りごとの抽出も行き信頼関係の構築に努めた。

・虐待の疑いや発見時、各関係機関へ速やかに連絡を行います。

↓

虐待なし。

(5) 認知症基礎研修

・認知症基礎研修未受講者については研修を受講するとともに、全訪問介護員は認知症の事業所内必須研修に参加します。

↓

認知症基礎研修の未受講者は次回受講。事業所内の認知症研修を実施。各利用者のカンファレンスに置いて事例を検討。

・認知症研修への参加を通して認知症ケアに取り組み介護の質の向上に努めます。

↓

認知症状や障害を抱える利用者に対して、同行訪問や法定研修にて理解や対応を学び周知できた。課題発生時にはカンファレンスを実施し解決に取り組んだ。

3. 働きやすい職場づくり・人材の育成と確保

(1) 訪問介護員の個別面談やスキルアップを目指した研修に取り組むなど人材の定着のため職場環境の改善に努めます。

↓

定期的及び必要時にミニカンファレンスを実施し、訪問介護員等が抱える悩みや問題の解消、各利用者の特徴等の情報共有を行い、訪問介護員の意識・知識・技術の向上を図るよう努めた。

(2) 訪問介護会議・内部研修を月1回開催し、サービス提供にあたっての情報の共有と事業所全体の必要事項の共有、課題等の課題解決に努めます。

↓

全員が集まったの会議や研修は難しいことがあり、ミニカンファレンスの時に行うことが多かった。

今後は2部制を検討。全体の必要事項の共有は申し送りノートやラインを活用、課題についてはカンファレンス実施し解決に取り組んだ。

(3) 職員の個別研修については、年間研修計画に沿って参加できるように事業所内でサポートを行います。また、Webを活用した研修実施に努めます。

↓

個別研修については、休み希望を提示し取得することができた。

Webを活用した研修は今後取り組む予定。

(4) 有休を取得しやすい環境整備・協力体制の確立を行います。

↓

体調不良時や突発的な休みに対して受け入れ、スムーズにサービス等調整ができた。

4. 地域貢献

(1) 地域の一員という自覚を持ち、利用者のサービス提供を実施しながら民生委員、地域住民との交流を持ち日頃から地域との関係作りに努めます。

↓

利用者在住の民生委員との交流を図り情報の共有に努めた。

(2) 困難事例の利用者も受け入れ、地域ケア会議に積極的に参加します。

↓

コロナ禍ということも影響し地域ケア会議開催なし。困難事例の利用者については居宅支援事業所等との情報の共有を頻回に行った。

訪問介護事業所

①令和5年度利用者実績報告

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録者 (実人数)	(予防)	41	43	47	48	49	47	45	47	45	45	46	48	45.9
	(介護)	33	33	34	33	35	33	36	34	38	38	38	39	35.3
サービス提供 (延べ人数)	(生活)	102	97	95	96	94	79	100	105	95	93	106	112	97.8
	(身・生)	73	90	92	96	93	100	106	106	112	104	117	113	100.1
	(身体)	276	229	233	264	287	291	294	293	273	250	220	199	259.1
	(予防)	219	246	285	290	280	260	273	263	255	234	252	262	259.9
1日の利用者数(平均)		23	21	24	24	24	24	25	26	24	22	25	22	23.7
登録者(計)		74	76	81	81	84	80	81	81	83	83	84	87	81.3
内まほろば(計)		22	22	22	22	24	24	23	22	22	23	24	21	.6

②令和5年度研修報告

・内部研修

月	研修内容	月	研修内容
4月	認知症ケア	10月	事故再発防止
5月	プライバシー保護	11月	虐待防止
6月	食中毒予防	12月	サービス提供記録の書き方
7月	倫理・法令遵守	1月	緊急時の対応
8月	看取りケア(ターミナルケア)	2月	精神疾患(障害特性の理解と対応)
9月	薬との付き合い方	3月	接遇

・同行訪問実施。

令和5年度 ケアプランセンターなのくに事業計画

I 事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

II 施設目標

利用者・家族の望む暮らしの実現に向け、自立支援に資するケアマネジメントを実践する

III 具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 利用者、家族との信頼関係を保ち、継続的なケアマネジメントにて担当件数 64 件を目指します

↓

年間平均実績 52.6 件。ケアマネの入れ替わりにより、担当可能な件数が変動し、目標値達成できず

(2) いきいきセンター、病院連携室への定期的なアナウンス・情報交換を行い新規獲得に繋がります

↓

今年度の新規紹介は 40 件、うち 28 件新規利用に繋がった。いきいきセンターからの依頼が 7 割近く。

(3) 各関係機関と連携していく中で、信頼され、選ばれる事業所を目指します

↓

紹介されたケースについて経過のフィードバックを行い継続的な関わりをもった。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 法令遵守

・居宅支援事業所の運営基準を遵守し適切な事業所運営を行います

↓

運営基準適合表を用い、適切な事業所運営が行えているか確認した

(2) アセスメント・傾聴力の向上

・利用者・家族の声を聞き、思いを受け止め望む生活を把握します

・多角的な視点から生活を捉え、課題を把握していきます

・本人・家族の有する力を見極め、自立支援をサポートします

↓

利用者・家族の意向を聞き取りながら、関係事業所の見解も組み込むことで、

より、多角的な視点から、生活課題の解決策を提案できるよう努めた

(3) コロナ禍におけるサービス提供

・感染状況によって自宅訪問ができない場合でも、電話や他の手段を用い

状況把握を行いケアマネジメントサイクルが継続できるようにします

・感染対応により、予定するサービス利用ができない時は、必要に応じて代替サービスの

調整を行い、生活への支障を最小限に出来るよう支援します

↓

感染による自宅訪問が出来ない状況でも、電話によるモニタリング実施を行った

発熱等による感染予防にて、予定通り利用できない場合あり、

可能な範囲で代替サービスの調整を行えた

(4) 公正中立なケアマネジメント

・特定事業所に偏らず公正・中立な立場で情報提供し、ご利用者、ご家族のご意向に沿った

サービス選択が行えるよう努めます

- ・介護保険サービスのみならず、地域のインフォーマル資源を把握、保健・医療・福祉など総合的なケアプランの作成を行います

↓

特定事業所に偏ることなく、本人・家族の意向に沿うよう、様々な事業所の紹介を行い選択できるよう努めた。特定事業所集中減算の適用はなかった
インフォーマルサービスの活用も含めたケアプラン作成を行った

(5) 次期介護保険改正に向けた取り組み

- ・感染対策委員会の設置、開催
- ・虐待防止検討委員会の設置、開催
- ・業務継続計画の作成

↓

全て実施できた

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1) 定例会議で担当ケースの情報共有、相談、事例の検討を行います

↓

都度、ケースの共有を行い、相談できる体制を図った

(2) ケアプランデータ連携システム、新しい介護ソフト等を活用し業務効率化を図ります

↓

ケアプランデータ連携システムは活用せず
ワイズマンの導入はスムーズに行えた

(3) 他部署との連携、協力を行います

↓

日頃の関係づくりから始め、ケースの共有、情報共有が図れた
感染対策委員会、虐待防止検討委員会を、在宅部門で立ち上げ、来年度からの開催準備を取組めた

(4) 内部・外部の研修会にて、介護支援専門員としての質の向上を目指します

4. 地域貢献

(1) 近隣住民、民生委員、公民館の方々との連携、協力を行います

(2) 地域行事への参加、ネットワーク活動を通し顔が見える関係づくりを行います

(3) 地域ケア会議、圏域連携会議への参加、相談窓口として活用していただけるよう努めます

↓

担当ケースの民生委員、近隣住民との連携、協力に取り組んだ
西区在宅医療地域リーダーを務め、西区地域包括ケア推進会議に参加した

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
予防	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	5	3.583
介護	50	50	50	52	57	56	55	54	54	54	50	50	52.67
合計	53	53	53	55	60	59	59	58	58	58	54	55	56.25 (人)

令和5年度 まほろばの里なの国 事業報告

事業目標

「経営の充実と安定した運営に取り組む」

施設目標

地域の中で安心して住み続けられる「住まい」と「サービス」を提供します。

具体的計画

1. 利用率の向上

①計画的な広報活動を継続し、常時満室を目指す。また待機者の確保にも努めます。

↓

令和5年4月に5名の退居があり、満床となるまでに3ヶ月を要した。待機者数は一定数あるものの、すぐに入居を希望される方がおらず空室を続かせてしまった。待機者の現状把握に努めることが必要と感じた。7月以降は退居が出てもすぐに入居に結び付き、満床をキープでき、年度末には100%の稼働率となった。

②年間を通した行事や、日々の活動をInstagramにて発信し、入居者獲得に結び付けます。

↓

Instagramにて行事や活動の発信ができた。

③入院や退居の要因を未然防止できるよう、日々の健康管理やADL低下防止のための取り組み
福祉用具の提案・設置を継続して行います。

↓

朝、夕の検温を継続し、コロナもインフルエンザも感染者を出すことなく経過した。年度終わりに2名の転倒骨折者が出た。福祉用具の早めの設置や利用を提案すべきだったと感じた。

2. 高品質なサービスの提供

①生活相談の強化を図り、入居者のニーズの把握・精神面の安定や、苦情発生の予防に努めます。

↓

入居者とのコミュニケーションを十分に図り、信頼獲得に尽力したと感じる。2名の生活相談員がいるため、いずれかの相談員に話をしに来られることが増えた。

②年2回運営懇談会を開催し、入居者の困りごとや要望の把握に努めます。

↓

感染対策として、前期はアンケートのみ、後期は懇談会を開催した。懇談会の際は色々な意見や質問が出され、やはり一堂に会しての開催の意義を感じた。

③かかりつけ医・訪問看護、他事業所等との連携強化を継続して取り組み、医療的な早期発見・早期対応を行います。また、新型コロナに対する感染症対策マニュアルを日々更新し、職員・入居者の体調を情報共有し、予防及びまん延防止に努めます。

↓

看護師を中心にかかりつけ医、訪問看護事業所との連携・相談に尽力した。特に近隣医であるせんばクリニックとは十分な連携を図り良好な関係が構築できている。

④十分な感染防止対策を前提として、午後活動の充実を継続して行い、生活の不活発の予防に努めます

↓

感染症の落ち着きから、少しずつ外部販売や外出行事も増やしていき、活動の充実を図った。後期には新規の移動スーパーを依頼したり、買い物ツアーや花見ドライブ等も行い、施設生活の活性化に努力した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成・環境づくり

①毎月のミーティング時に、接遇・コミュニケーション・サ高住に関連する制度理解等、短時間の勉強会を継続して行います。

↓

毎月のミーティングが不定期になってしまった。短時間の勉強会もできないことが多く、全職員研修や、在宅部門でのノーリフティング研修等に参加し、研鑽の機会とした。

②福岡市事業者研修・有料老人ホーム協会等、外部研修(ウェブ会議含む)に計画的な参加を行い、職員のスキルアップを目指します。

↓

交流室に集まったの内部研修が再開されたため、できる限り関係する研修には参加するようにした。

③有給休暇を取得しやすい環境整備・協力体制の確立を目指します。

↓

各自月に1回は有給休暇を取得できるように配慮している。互いに補い合いながら働けるよう協力体制ができている。

④ゴミの分別や裏紙の利用等に努め、自然環境を意識した業務を行います。

↓

資源ごみのダストを設置し、入居者にも呼びかけ、活用できている。裏紙の有効活用やリサイクル等、自然環境を意識した業務が全員で行えている。

4. 地域貢献

① 地域社会とつながった生活を継続できるよう、地域行事のアナウンス強化に努めます。

↓

壱岐公民館での行事への参加の呼びかけはできたが、送迎をする等の積極的な関わりにまでは至らなかった。

② 地域で行われる年間行事やボランティア、バザー活動に、職員・ご入居者共に積極的な人的派遣を行い地域貢献に努めます。

↓

積極的な人的派遣にまでは至らなかった。

③地域住民向けの講座(制度理解・認知症・介護技術・防災等)を積極的に行い、地域包括ケアにおける地域住民の意識向上を支援します。

↓

今年度も講義等に出向く機会がなかった。声が掛かれれば是非とも地域貢献していきたい。

利用者状況

①入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	0	2	1	4	0	2	0	0	0	3	0	0	12
退居者数	5	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	10
月末在籍住戸数	35	36	36	39	39	40	40	40	39	40	40	40	38.7
月末在籍者数	35	36	36	40	40	41	41	41	40	42	42	42	39.7
月末在居者数	33	35	36	40	39	41	41	41	40	42	42	42	39.3
延べ利用人数	1133	1107	1093	1134	1240	1193	1271	1230	1243	1248	1206	1302	1200.0
稼働率	94.4%	89.0%	91.1%	91.2%	97.5%	98.4%	100.0%	100.0%	97.7%	98.5%	100.0%	100.0%	96.5%

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	6	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5.7
要支援1	7	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5.8
要支援2	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	6	5.7
要介護1	13	14	14	16	16	15	15	14	15	18	18	17	15.4
要介護2	4	3	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4.6
要介護3	3	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0.8
要介護4	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2.2
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均要介護度	1.73	1.55	1.55	1.54	1.54	1.57	1.57	1.70	1.61	1.44	1.44	1.46	1.6

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	5
転倒	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	5
座り込み・落床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
配薬関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	5

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

入院延日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	123	51	2	0	38	18	21	95	55	24	12	38	477

外泊延日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	5	4	5	7	5	3	7	2	7	11	4	3	63

令和5年度 年間行事報告

月	施 設 行 事	他機関・地域行事
4月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	ふれあいサロン(集会所)
5月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	ふれあいサロン(集会所)
6月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	ふれあいサロン(集会所)
7月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 買い物ツアー	ふれあいサロン(集会所)
8月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 歌の広場 運営懇談会(アンケートのみ)	ふれあいサロン(集会所)
9月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 敬老祝賀会	ふれあいサロン(集会所)
10月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 運営懇談会	ふれあいサロン(集会所) 吉岐校区文化祭
11月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 買い物ツアー なの国文化祭	ふれあいサロン(集会所)
12月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 歌の広場	ふれあいサロン(集会所)
1月	映画鑑賞会 元旦祝賀会 午後活動 歌の広場 喫茶の日	ふれあいサロン(集会所)
2月	映画鑑賞会 歌の広場 喫茶の日 午後活動 運営懇談会	ふれあいサロン(集会所)
3月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 花見ドライブ(喫茶のみ)	ふれあいサロン(集会所)
<p>【週間予定及び会議等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○散髪・・・ヘアヘルパー(月1回) ○移動販売・・・椿食堂(第1・第3水曜) とくし丸販売(不定期) なの国マルシェ(不定期)R6,3月で終了 セブンイレブン販売(不定期)R5,11月で終了 ○電気検針日・・・毎月1日 ○体重測定日・・・第2日曜 ○スタッフ会議・・・不定期 ○管理者会議・・・第2木曜日 		

※ 感染症の状況により変更する場合あり

令和5年度 ケアスクール 事業報告

事業目標

施設運営の経営の充実と法人経営の安定を目指す

具体的計画

1. 利用率の向上

- ①計画的な広報活動を行い、各講座の受講定員数(初任者研修10名 実務者研修20名)の確保に努めます。
- ②ホームページを活用し、Webシステムや研修内容など、スクールの魅力発信を積極的に広報し受講者獲得に結び付けます。
- ③教育訓練給付制度、介護福祉士修学資金貸付制度等の助成制度の活用を広報し、また申請代行の充実化を図ることで受講者確保につなげることを目指します。

↓

・福岡市糸島市を中心に積極的な広報活動を行い、「介護福祉士実務者研修(20名)」「初任者研修(5名)」の修了生を輩出した。
・受講生の、受講に関する金銭的負担の軽減として、教育訓練給付金(実務者6名)、介護福祉士修学資金貸付制度(13名)の活用を積極的に支援した。

2. 高品質なサービスの提供

- ①担当講師との意見交換・振り返りを随時行い、講義・演習内容、研修環境等のさらなる充実を図ります。
- ②最新の介護知識・技術に応じた研修を実施できるよう、DVD等の使用教材、補助テキストの情報収集を積極的に行い、随時更新していきます。
- ③実習受入れ施設と密な連携を図り、現場で働くことを意識した実習プログラムを提供します。
- ④「介護福祉士受験対策講座」等、他にはないオプションサービスの充実を図ります。
- ⑤受講生が安全な環境で授業を受けられるよう、感染対策に努めます。

↓

・受講生のアンケートや、個別の聞き取りをもとに講義内容や配布資料の見直しを行い、講義・演習の質の向上に努めた。法整備の情報もいち早く取り入れて、最新のものを追加導入した。
・介護福祉士受験対策については、Webシステムの積極的な活用をサポートすることや、関連雑誌の予想問題等の提供を継続して行った。
・感染症対策を行い、安全・安心に開校することができた。
・新型コロナ陽性となった受講生、濃厚接触者になった受講生には、特別補講で対応し、資格取得の支援を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ①法人内職員への研修受講を積極的に啓発し、有資格者数の向上に努めます。
- ②法人内で講義・演習を実施出来る人材を計画的に育成し、講師の量と質の向上に努めます。
- ③受講修了者から、当法人への雇用につながることで、慢性的な職員不足の解消に貢献します。

↓

- ・法人内職員 8 名「介護福祉士実務者研修」が資格を取得した。
- ・法人内職員 5 名「介護職員初任者研修」が資格を取得した。
- ・担当講師との意見交換・振り返りを毎授業ごとに行い、質の向上を図った。

4. 地域貢献

- ①地域住民に、積極的な学習の機会を提供することで、地域福祉の向上に貢献します。
- ②高校生等が受講しやすいスケジュール調整を行い、介護人材確保の向上に努めます。

↓

- ・高校生・地域住民・公民館への広報活動を行ったが、受講希望は得られなかった。

